

行田市山の会

1. 沿革

昭和35年7月、市内の山好き30余名が集まり、会長に保泉利喜之助を推し、「行田山岳会」として発足しました。発足と同時に市体育協会に加盟し、ハイキングから山登り、雪山登山まで幅広い登山活動を続けてまいりました。

しかしながら、レジャーの多様化に伴い、若い会員が減っていく中、中高年の登山者が増加し入会者のほとんどがその年代の方になり、会の平均年齢も上昇しています。現在は、「山の会」と名称を変更し、主に日帰り登山、ハイキングが主流になっています。



写真説明 春を告げる八汐ツツジ

2. 活動報告

会では、毎月第1水曜日に「みらい」において例会を開催し、前月の山行報告と当月の山行計画を発表し参加者を募ります。

1年間の山行を記すと、春は3月ころから八汐ツツジ（赤ヤシオ）を求めて、群馬や栃木の低山ハイキングに始まり、5月頃まで次第に標高を上げていくつもの山を訪れます。初夏には、五葉ツツジ（白ヤシオ）やシャクナゲ等の咲く山に、夏は高山植物や残雪のある東北や北アルプス等が多くなります。秋にはもちろん紅葉を求めての山行です。しばらく行っていませんが、涸沢カールの紅葉は、本当に素晴らしいもので日本の紅葉風景を代表するといっても過言ではありません。また、

昨年も那須の姥ヶ平や福島のア達太良山などに行き、その美しさを堪能してきました。9月末から12月初めまでの紅葉山行が終わると近郊の山での陽溜まり山行となります。この季節は、木は落葉し山の稜線では見通しが良くなりそれまで見られなかった景色を望むことができ、奥武蔵や秩父では北風の来ない斜面でのんびりすることができます。



写真説明 雪渓を登る

このほかに会では年に1回の市民ハイキングを行っています。主に5月前後、バスを利用した日帰り、花を求めての山や高原などに行き、楽しい1日を過ごしていただくよう実施しています。幸いにも毎回多くの方に参加いただいています。

このように1年を通じて、その時期にふさわしい山に登っています。当然のことながら、初めての山、何度も登っている山がありますが、季節やコースを変えると同じ山でも新たな発見があり別の喜びがあります。登山には、低酸素運動による持久力のアップ、足腰の筋肉の強化など肉体的な効果のほか、森林浴や花や景色を眺めてのリラックス効果などの多くの健康的効果が認められています。

ただし、頑張りすぎると逆効果になるので、中高年の多い現在の会では、体力や経験に合わせ参加してもらうようにしています。毎月3回から4回の計画がありますので、その中から自分に合った計画に参加しています。山行は、主に車を利用しますが、電車を利用した山行もあります。現在は、高崎線も小田原方面まで直通となり、青春18きっぷなどを利用し、以前は日帰りが難しかった伊豆や沼津方面の山まで活動範囲を広げています。



写真説明 お花畑でニッコリ



写真説明 山頂でパチリ

3. 役員について

行田市体育協会理事	高橋 昭三
役職名	
初代会長	保泉 利喜之助
2代目会長	神田 茂
3代目会長	河田 克己
現会長	宮崎 薫
副会長	山下 誠
副会長	羽賀 みや子
会計	高橋 昭三
監事	吉田 隆
監事	永島 不二子

4. 今後の課題や展望

現在の会員数は、50人を超えて山行の回数も毎週のように計画されており活動は活発です。

しかしながら、どこの団体でも同じ状況と思いますが、会員の高齢化は着実に進行しています。やはり、長期の山行や標高の高い山、雪山などの山行は確実に減少しています。近郊の3～5時間程度の軽い山行が主流となっています。参加者も多いことから、今後も続いていくことは間違いありませんが、それでも岩場や鎖場などは山行には付き物であり、危険が無くなるわけではありません。体力面が年々衰えてくるのは仕方のないことですが、バランスをとることや反射神経なども衰えてくるので滑ったり躓きなどで転倒しけがをするリスクが増加します。自然の中で楽しむことが登山なので予期しないことも起こりえますが、今後も楽しい安全な登山を心掛けていきたいと思っています。

体力の衰えはまず足腰からとわれていますので、登山を通して体力の衰えを極力少なくし、健康の保持に努めたいと思っています。会員相互の親睦を深め、より安全な登山を目指し10年後の80周年を迎えたいと思っています。

行田市陸上競技協会

1. 沿革

昭和24年に行田市陸上競技連盟後に、行田市陸上競技協会となる。

当時、故井上茅雄氏（当時行田市立西小学校長）故渋沢丈祐氏（当時西小学校教頭）故中谷忠次氏（当時商工課長）らが中心になり、本協会が成立される。これに小学校関係から、故高橋文男氏、奥泉昇氏、故今村昭明氏、故岡田宰一氏、故沢田雅雄氏、八方荘次氏、中学校より故萩原準助氏持田青年団有志、故中村要三氏、故前田一郎氏が加わり、各種競技会や県大会に出場するようになった。

そのうちに市内一周駅伝大会や市民体育大会等が開かれ、これら大会の運営を主管・主催するようになる。

現在、小学生を対象として「陸上運動教室」を開催し、陸上競技の普及、振興活動に取り組んでいる。



陸上運動教室の練習風景

2. 活動報告

(1)陸上運動教室の開催

はじめは、昭和54年行田ジュニア・アスレチック・クラブ（JAC）として発足。現在は、陸上運動教室として、小学生を対象に、陸上競技（運動）を通し体を動かす楽しさの体得を目指し、年間24回（月2回）実施。

活動内容としては

- 低、中、高学年別での練習
- 記録会及び小運動会
- 親と子の青空教室（日帰り）

目的地は、長瀨、浦山ダム、小川げんきプラザ、県立川の博物館の4方面をローテーションし、秩父鉄道を利用し、親子で楽しい一日をすごしています。

- お正月レクリエーション大会

場所は、埼玉古墳公園で丸墓山一周マラソンやたこ揚げ等の遊びを保護者も交えて楽しめます。

平成30年度の児童数は194名で、10年前の79名と比べ大幅に増え、元気に活動しており、やり甲斐を感じています。



小運動会の一場面

(2)市、県の各種大会への出場と協力

①児童出場

- 平23年全国小学生交流県予選会
走り高跳び 第1位 千葉 樹（6年）
1 m34cm（全国大会出場）
- 平25年彩の国小学生クラブ交流大会
800m 第5位 長瀬 結菜（4年）
2分57秒
- 浮城のまち行田駅伝競走大会（4、5、6年対象）

②陸協としての協力

- 各種大会への役員協力
市駅伝大会（主管）をはじめ、市民体育祭、鉄剣マラソン大会、さらに東日本実業団駅伝大会、埼玉県駅伝大会の役員として毎年協力している。

(3)保護者対象の講話開催

- 日 時 陸上教室開催日（1時間30分）
- 会 場 グリーンアリーナ会議室
講師 奥泉昇会長より、健康や子どもの成長等に関する講話を開いている。
「心の健康と体の健康」
「あいさつのできる子ども」
「健康とは、人を幸せにするもの」等。

会員数（児童）と親と子の青空教室（目的地・参加者）

平成21年度～30年度

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
日時	8月9日	8月1日	8月7日	8月5日	10月20日	8月17日	8月23日	8月23日		8月19日
目的地	長瀬	小川げんきプラザ	瀬山ダム	長瀬	川の博物館	川の博物館	小川げんきプラザ	瀬山ダム	長瀬	長瀬
会員数	79	86	91	96	118	104	145	114	131	194
参加者	42	47	74	72		76	66	63		45
備考					中止				中止	



平成30年度 親と子の青空教室（長瀬）

(4)その他（NHKより撮影依頼）

平成29年に行田市は大きな盛り上がりを見せました。それは、行田を舞台にしたTBSテレビ「陸王」のロケが市内のあちこちで行われた。その後、NHKさいたま放送局で、「行く蔵 見る蔵」と題した動画キャンペーンが企画されました。その中で、「子どもたちの楽しく走る場面」を撮りたいと、陸協に依頼があり、六年生が撮影に協力し、貴重な体験になりました。



6年生出演による撮影風景

3. 今後について（これからの活動）

これからの3つの活動

(1)陸上運動教室の充実

そのために定期的に研修会を開き、子どもの発達段階に応じた効果的な指導を工夫していく。

(2)「親子で運動」の奨励

親自身にも運動に参加してもらえるように、声

かけをし、体を動かすことを通して運動のよさを実感してもらいたい。

(3)保護者への会報発行

A4一枚程度の資料を作成し、子どもの成長や健康、食事、運動、生活習慣等に理解と関心を持ってもらう。

4. 役員等について

平成30年度 役員・会員

- | | | | |
|---------|-------|-------|--------|
| 会長 | 奥泉 昇 | | |
| 副会長 | 篠原 忠 | | |
| 副会長・事務局 | 大嶋 伸之 | | |
| 副会長・会計 | 森 由美子 | | |
| 理事長 | 福島 恭司 | | |
| 副理事長 | 長谷部謙一 | | |
| 教室担当 | | | |
| | 福島 恭司 | 新井 浩 | 長谷部 謙一 |
| | 浦辺 英樹 | 麦谷 真信 | 長谷部美知子 |
| | 山崎 千晴 | 図師 宗 | 武田 充弘 |
| 監事 | 新井 浩 | 栗原 郁子 | |
| 協力員 | 田中 未央 | 柴田美智代 | 長谷部凌央 |
| | 田中 翔 | 横田 薫乃 | 大竹 真人 |
| | 野林 義史 | 野林 由美 | 浦辺 拓哉 |
| | 山口友之介 | 山口英之介 | |

この10年間の役員・会員

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 秋山 健一 | 佐藤 清司 | 鈴木 謙二 |
| 澤田 和夫 | 吉田 幸次 | 斎藤 恭子 |
| 田中 大貴 | 井野由紀子 | 瀬尾 之 |
| 小川 滋之 | 田中 俊光 | |

5. 70周年を向かへての目標

70周年を迎える年は、平成から新しい年号になる年。そして、さらに2020年には東京オリンピック・パラリンピックが、いよいよ開催されます。子どもたちに大きな夢を、そして市民の皆様の体力向上を図っていききたい。

民踊レクリエーション協会

1. 沿革

行田市民踊レクリエーション協会は、体育協会に支えられて、55年以上歩んできました。練習は、毎月1回、二旭集会所に集まり行っています。また、埼玉県連の講習会が、年7回、上尾スポーツ総合センターで行われます。

「たのしい民踊」と「ふるさとの民踊」で、年間20曲の新曲を修得しています。

埼玉県民踊総合体育大会は、毎年10月に熊谷スポーツ文化公園で行われます。県全体ですので、約3千人以上集り盛大なものとなります。当日は、会員全員で参加します。



年末になりますと、北埼玉支部民踊発表大会が行われます。平成30年は、行田支部が担当になり、佐間公民館全館を借り切り盛大に行われました。その節は、公民館の方々に協力して頂き大変ありがとうございました。当日は、会員200名位集り、行田支部は10名参加しました。フィナーレは、東京五輪音頭で終わりました。次回は、「大利根民踊連盟」「北川辺レククラブ」「原道民踊クラブ」の合同で開催予定です。



彩の国くまがやドームにて

2. 10年間のあゆみ

- ①北埼玉支部民踊連盟＝総会
- ②埼玉県民踊レクリエーション連盟＝総会
- ③東照宮春まつり
- ④さきたま火祭り
- ⑤浮き城まつり
- ⑥燈ろう流し
- ⑦埼玉県スポーツフェスティバル
- ⑧市民体育祭
- ⑨県民総合体育大会
- ⑩北埼玉支部民踊発表大会
- ⑪埼玉県民踊発表大会

3. 埼玉県民踊レクリエーション連盟の1年間の主な予定

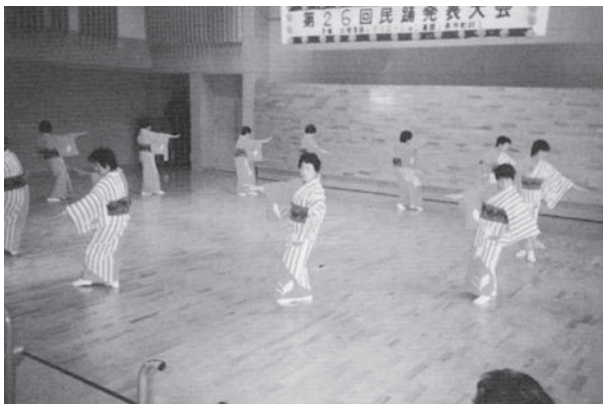
- | | | |
|-----|----------|--------------|
| 4月 | 総会 | 上尾スポーツ総合センター |
| 5月 | 第1回定例講習会 | |
| 8月 | 第2回定例講習会 | |
| 9月 | 第3回定例講習会 | |
| 10月 | 第4回定例講習会 | |
| 11月 | 第5回定例講習会 | |
| 1月 | 第6回定例講習会 | |
| 2月 | 第7回定例講習会 | |
| 3月 | 県連常任理事会 | |

4. 北埼玉民踊レクリエーション連盟の1年間の主な予定

- 5月 総会 羽生市民プラザ
各支部2人出席
- 6月 北埼玉支部 大利根体育館
5人出席
- 8月 県総体の練習 加須体育館
- 10月 県大会 熊谷ドーム
- 12月 北埼玉支部 発表大会 佐間公民館
- 1月 役員新年会 加須市

5. 役員等について

- ・会員 須加支部 9人
旭町支部 1人
- ・役員 会長 藤井すい子
副会長 長谷川テル子
会計 藤井すい子
監査 長谷川テル子



彩の国くまがやドームにて

6. 今後について

長い間行田市民踊レクリエーション協会の役員を行っておりますが、会員の皆さんの年齢も増し、会員の数も少なくなっていますので、若い方の入会を望んでいます。

楽しく、ゆかいに、元気で、皆さんと共に踊り、県連で行う大会に、ぜひ参加いたしましょう。どうぞ、よろしくお願い致します。

空手道連盟

1. 沿革

平成18年4月、鈴木民儀氏、小林隆夫氏を中心に6団体で新行田市空手道連盟発足。初代会長に前埼玉県高等学校体育連盟空手道専門部長であった鈴木民儀氏が選任され、行田市空手道発展のため尽力された。19年9月に第1回秋季大会を記念大会として開催。

平成22年5月、新たに行田市空手道瀧真会が加盟し、本年より行田市空手道連盟となる。

平成27年7月、新たに誠道館山崎塾が加盟し、加盟団体が8団体となる。

平成28年5月より西村和宏氏を2代目会長に選任され、現在に至る。

平成29年9月、正修館が連盟を脱退し、加盟団体7団体となる。

毎年、春と秋に大会を開催し、平成29年4月には、第20回記念大会を開催した。



▲連盟役員【平成29年8月撮影】

・活動報告

4月

行田市春季武道大会【空手道の部】

各道場県大会【全国大会予選】

関東高等学校空手道大会県予選【高体連】

5月

連盟総会・懇親会

彩の国杯【国民体育大会予選】

各道場県大会【全国大会予選】

6月

関東大会・インターハイ予選【高体連】
スポ少北ブロック大会

7月

日本空手協会【一般全国大会】

みんなでラジオ&ながちか体操 参加

8月

全国中学校空手道選手権大会【中体連】

関東空手道選手権大会【全空連】

小中全国大会【日本空手協会・誠道館】

9月

行田市秋季空手道大会

10月

国民体育大会

行田市市民体育祭 参加

11月

新人大会【高体連】

関東大会【日本空手協会・誠道館】

12月

全日本選手権大会【全空連】

連盟納会

1月

関東高等学校空手道選抜大会【高体連】

2月

埼玉県高等学校空手道選抜大会【高体連】

3月

全国高等学校選抜大会【高体連】

その他

審判講習会、形・組手講習会、昇級審査、昇段審査、等

毎年多くの選手が県大会に出場し、関東大会・全国大会・国民体育大会・全日本選手権大会において、素晴らしい結果を残している。



▲平成30年度

内閣総理大臣杯全国空手道選手権大会

団体組手 優勝【日本空手協会】



▲進修館高校空手道部 関東大会にて



▲日本空手協会行田支部



▲誠道館山崎塾



▲誠道館横田塾

・役員【平成30年度】

- 顧問：鈴木民儀
- 会長：西村和宏
- 副会長：横田尚俊
- 理事長：佐藤文雄
- 副理事長：平原成治 横田小代
- 理事：原 薫 遠藤 洋 大竹雅彦
長島秀宣 山崎恭志 山口謙一
- 評議委員：柿沼貴志 松本貴志 浅賀 元
- 監 事：渡邊廣行
- 事務局長：五十嵐順子
- 事務局次長：西村尚子 山元朗弘
- 進修館高校顧問：小暮 宏

・加盟団体【平成30年12月現在】

	団 体 名		代 表 者
	①	糸東会誠道館 横田塾	横田 尚俊
②	糸東会誠道館 山崎塾	山崎 恭志	
③	公益社団法人 日本空手協会 行田支部	西村 和宏	
④	行田市空手道 瀧真会	平原 成治	
⑤	県立進修館高等学校空手道部	小暮 宏	
⑥	進修館高校空手道部OB会	長島 秀宣	
⑦	ものづくり大学 空手道部	原 薫	

・今後の連盟

平成19年、新たに連盟を立ち上げてから20年余り、行田市教育委員会ははじめ、体育協会、教育委員会スポーツ振興課の皆様にご支援いただきながら、本日まで活動することができました。行田市体育協会創立70周年にあたり、今日まで連盟のためにご尽力いただいた皆様にご場をお借りし、感謝申し上げます。

おかげ様で空手道連盟は、年を重ねるごとに大会参加団体も増え、流派を超えて様々な場で交流を深めています。2020年に東京オリンピックの正式種目になり、注目されている競技でもあるので、指導者一同、気を引き締め子どもたちの育成に力を入れて行きたいと思っております。

行田市体育協会創立70周年、誠におめでとうございます。

行田市水泳連盟

1. 近年10年間のあらまし

行田市体育協会創立60周年時の平成20年9月当時の当連盟の趨勢は、一般成人の10団体と児童クラブ4団体合わせて約900人の会員を擁していた。

その後の10年間は児童クラブの4団体は、行田市の児童数の減少がある中、指導者の賢明なる努力により400人～450人の会員を維持し、児童の泳力や体力の向上を目指し内容も質的にも充実が図られ順調に推移している。

他方、一般成人の団体の会員は平成20年には10団体350人であったが、9団体194人と減少し衰退に歯止めがかからない状態が続いている。

これらの要因として、若い会員の入会が少なく会員自体の高齢化が進んでいること、また唯一の公共体育施設(屋内温水プール)が開設以来40年以上が経過し老朽化が激しく、温水プールと合わせ最新のトレーニング機器などを導入したトレーニングルーム等を有する複合的な会員制の民間スポーツ施設・他の市町村の温水プールと比べると著しく劣っていることがあげられると考えます。

2. 傘下加盟団体の状況

平成30年10月の加盟団体は次のとおりである。

団体名	練習日	時間帯	会員数	対象
ビッキークラブ	火曜日	午前	24人	一般
ドルフィンクラブ	木曜日	午前	32人	一般
スタークラブ	金曜日	午前	23人	一般
リズム水泳	水曜日	午前	7人	主婦
マーメイドクラブ	水・木	午後	25人	主婦
月泳会	月曜日	夜間	6人	一般
水泳会	水曜日	夜間	4人	一般
木曜会	木曜日	夜間	13人	一般
マリクラブ	金曜日	夜間	15人	一般
イルカクラブ	月・木	夕刻	106人	児童
河童クラブ	火・金	夕刻	98人	児童
飛魚クラブ	水・土	夕刻	92人	児童
カモメクラブ	日曜日	午前	110人	児童

3. あゆみ

近年の10年間、従前と同じように推移したが、次の2件の表彰の受賞があった。

平成24年11月 金田和憲氏、多年にわたり地域の教育文化の振興に尽力された功績に対し行田市より表彰される。

平成27年10月 荒井二郎氏、金田和憲氏の両名が埼玉県水泳連盟より功労賞を受賞。



4. 近年10年間の正副会長

平成16年度より今年度までは次の体制です。

会長 金田和憲

副会長 関根和子

吉田哲也

5. 平成30年度の役員表

会長 金田和憲(カモメC)

副会長 関根和子(飛魚C) 吉田哲也(イルカC)

監事 本間喜作(木曜会) 大澤敏子(ドルフィンC)

顧問 荒井二郎(推薦) 新島健治(推薦)

理事 ビッキークラブ

根立道子 柿沼正位 小林美恵子

ドルフィンクラブ

内山照恵 升田美智子

スタークラブ

栗原とし子 小林幸恵 小川美喜江

リズム水泳

大津昌子 蓮見やよい

マーメイドクラブ

中村とよ子 栗原真知子 橋本悦子

月泳会

谷口 武 川端昭夫 峯川久夫

水泳会

渡辺直良 萩原 厚 大河原健一

木曜会

本間喜作 田島康夫 石渡祐市

マリソクラブ

由利貞男 飯島正尋 関根公代

イルカクラブ

杉浦雄一 川崎恵子

河童クラブ

荻野秀夫 新島 譲 市川和子

飛魚クラブ

小池博士 斉藤さゆり

カモメクラブ

山下祥子 井上節子

6. 主催事業

市民プールを拠点に活動し、次の通り実施している。

- ①普通救命講習(行田市消防本部)
- ②行田市民水泳大会(市民プール屋外)
- ③行田市水泳技能研修会(市民プール屋内)
- ④行田市室内水泳大会(市民プール屋内)

7. 事業の概要

①普通救命講習について

従前は赤十字水上安全講習会を実施してきたが、講師の都合により、行田市消防本部にて事故防止及び救急体制の確立を目的にシーズンに先立ち5月に開催し参加者は20名程度である。

②行田市民水泳大会について

昭和55年に大会を復活させ、その後継続して実施してきたが10年前の参加者は約300人であったが、児童の減少や大人の会員の高齢化により本年度は約200人の参加にとどまった。



③行田市水泳技能研修会について

従前は、水泳指導員研修会として実施してきたが指導員以外でも気軽に参加できるように名称を変更し、10月下旬から11月上旬かけて5回にわたり実施し、本年度で38回を終了した。講師には従前同様埼玉県水泳指導者連絡協議会会長 中川朝雄 先生と埼玉県水泳連盟検定委員 塚田真澄 先生の指導を仰いでいる。参加者は約40名である。



⑤行田市室内水泳大会について

昭和63年よりジュニア大会とマスターズ大会で実施してきたが参加人数の減少により1本化し2月下旬に31回目を実施した。参加人数は10年前が約350人であったが240人に減少した。

8. 今後の課題

1つ目としては、大人の会員の高齢化に歯止めがかからない状態を脱却し若い方々に目を向けていただくための方策。

2つ目として、小学生の普及はかなり出来ていると思うが、中学生・高校生との繋がりがなく水泳人口は皆無に等しい状態を改善する方策。

以上2点が大きな課題として長期的に考える必要がある。

行田市小学校体育連盟

1. 沿革

- 昭和30年度 行田班小体連発足、体育協会加盟
行田市13校、南河原村1校、計14校
でスタートする。
- 昭和56年度 行田市立泉小学校開校
行田市14校、南河原村1校、計15校
となる。
- 昭和57年度 行田市立桜ヶ丘小学校開校
行田市15校、南河原村1校、計16校
となる。
- 昭和61年度 連合運動会の種目「100m走」「走
り幅跳び」「走り高跳び」「ボール
投げ」「400mリレー」の5種目に
「80mハードル走」を加えた。
- 昭和62年度 駅伝大会の会場を須加小学校から星
宮小学校周辺道路へ移す。
- 平成元年度 連合運動会の会場を星宮小学校から
行田市総合公園自由広場へ移し現在
に至る。
- 平成3年度 駅伝大会の会場を行田市総合公園自
由広場へ移す。
- 平成5年度 児童の少子化や行事精選等から駅伝
大会を廃止し、1000m走として連
合運動会種目に盛り込む。
- 平成13年度 連合運動会の種目「80mハードル
走」を児童の実態から「60mハー
ドル走」に改める。
- 平成18年度 合併により南河原村立南河原小学校
が行田市立南河原小学校となる。
行田市立小学校16校による連合運動
会を実施する。
行田班小体連から行田市小体連とな
る。

2. 活動状況

行田市小学校体育連盟は、行田市の小学校16校の体育主任を中心に構成し、児童の健康・体力の向上を目指し、諸事業を実施している。

- 4月 小体連研究協議会（組織作り及び事業計画等の協議）
- 6月 新体力テストの集計及び考察
水泳実技伝達講習会（市民屋内プール）
- 7月 体育実技伝達講習会（総合体育館）
- 10月 行田市小学校連合運動会（総合公園自由広場）
- 11月 小学校体育授業研究会
- 2月 体育研究協議会
- 2月 小体連研究協議会（事業等の反省と次年度の計画）

(1)新体力テスト結果の集計と考察について

毎年5月、小・中学校では新体力テストを実施している。その結果を集計し、前年度の県及び市内の平均と比較することにより児童・生徒の体力の実態を把握し、指導に生かしている。

(2)実技伝達講習会について

①水泳実技伝達講習会

体育主任等の代表が、埼玉県水泳実技指導者講習を受講し、その内容を市内の小学校教員に伝達している。そこでの受講者は、水泳実技に関する指導法を身に付け、各校で更に広め指導に生かしている。



②体育実技伝達講習会

体育主任等の代表が体育科の運動領域の中の4領域について、埼玉県体育実技指導者講習を受講し、その内容を市内の小学校教員に伝達している。そこでの受講者は体育実技を身に付け、各校で更に広め指導に生かしている。



(3)行田市小学校連合運動会について

昭和30年から開催されている連合運動会も、2018年度で64回を数え、歴史ある伝統行事となっている。会場については何度か変更してきたが、平成元年度からは行田市総合公園自由広場で開催している。市内の小学校6年生全児童が参加し、男女別学級対抗形式で競技を行っている。

種目は、「100m走」「走り幅跳び」「走り高跳び」「ボール投げ」「400mリレー」の5種目で始まり、昭和61年度より、「80mハードル走」を加えた。(平成13年度より「60mハードル走」に改め、平成20年度には、インターバルを7mから6.5mに変更した。)また、平成5年度より駅伝大会廃止に伴い、「1000m走」を加えた。

選手は学級代表制で、リレー以外の種目は学級1名とし、リレーについては、他種目との重複出場も認めている。

選手以外の児童の参加種目については、平成元年度から会場変更に合わせて、これまでの「組体操」から「全員100m走」に改めた。参加児童には100m走の記録証を授与し、励ましている。



※連合運動会大会記録（平成30年度現在）

種目	性	氏名	記録	校名	年度
100m	男	松本 洋輔	12秒6	西小	H2
	女	佐藤 有紀	13秒9	太西小	H2
80m H	男	青木 久典	12秒1	中央小	H2
	女	石井 涼子	12秒9	東小	H元
60mハードル 間7m	男	望月 由太	9秒6	北小	H13
	女	棚原ジュン	10秒4	太東小	H15
60mハードル 間6.5m	男	刈谷 裕太	9秒5	下忍小	H20
	女	小林 祐美 村田 彩華	10秒1	太東小 泉小	H21 H27
1000m	男	吉田 祐太	3分07秒9	桜ヶ丘	H6
	女	栗原 由佳	3分13秒3	北河原	H6
走り幅	男	川上恵一郎	4m80cm	星宮小	S45
	女	野口 晃代	4m31cm	中央小	S61
走り高	男	伴 達郎	1m47cm	中央小	H5
	女	森村 瞳	1m34cm	東小	H4
ボール 投げ	男	大島 直樹	74m39cm	西小	H5
	女	大瀧 菜月	57m67cm	西小	H25
400m R	男	木村チーム	55秒2	埼玉小	H2
	女	小島チーム 中里チーム	57秒4	桜ヶ小 太西小	H元 H2

(4)小学校体育授業研究会について

毎年、学校持ち回りで実施している。小学校体育指導方法について、公開授業をもとに研究協議を行っている。この研究会は、当初「女子体育授業研究会」としてスタートし、女子教員の体育授業改善・充実の場として大きな役割を果たしてきたが、平成2年度から「小学校体育授業研究会」と改め、東小学校から再スタートした。

この事業は、小体連単独の事業でなく、「行田市小・中学校体力向上推進委員会」との共催事業となっている。



(5)県小学校体育研究協議会について

毎年度、市内小学校の代表者（各校の持ち回り）が埼玉県体育研究協議会に参加し、研究報告（提案）をしている。参加者は、その成果を持ち帰り、市内の小学校に広め、指導に生かしている。

(6)行田市のスポーツ事業への協力について

「行田市鉄剣マラソン」「行田市綱引き大会」「行田市駅伝競走大会」「行田市なわとび大会」「行田市一輪車大会」については、小体連の各担当が毎年役員として協力し、行田市の生涯スポーツ事業を盛り立てている。

3. おわりに

行田市小学校体育連盟は発足以来53年、一貫して、行田市小学生の体力の向上及び健康の保持増進について取り組んできた。連合運動会をはじめとする諸行事を実施する中で、学校という枠を取り払って、真剣に相談し、慎重に活動することにより、深い「絆」を結んでいる。今後も、変化の激しいこれからの社会を生きる子供達に「生きる力」の基盤を担う「健康」と「体力」を強く意識し、行田市小学生の体育の充実・発展に寄与していきたい。

行田市中学校体育連盟

1. 沿革

行田市中学校体育連盟の発足は、昭和22年に学制が改革された翌年4月に県下各郡市に支部が置かれたことをきっかけに、生徒の体位、体力向上、スポーツ振興、保健体育の研究・調査等を目的に掲げ、スタートした。

行田市中学校体育連盟は、中体連北埼玉郡市支部の一員であったが、昭和24年に市制施行と共に中体連行田支部として現在に至っている。発足当初の支部加盟中学校は3校であったが、昭和29年から32年にかけて、荒木・須加・北河原・埼玉・太田等の8つの村が合併し、加盟中学校も7校になり、その後中学校の統合や南河原村立南河原中学校を加え7校になる。さらに、行田市立西中学校が開校し、現在の8校で結成している。また、平成18年1月に南河原村が行田市と合併し、行田市立南河原中学校となっている。

2. 行田市中学校体育連盟役員（平成30年度）

会長	池野 透	副会長	高野 真一
理事長	島野 和典	副理事長	田中 望
理事	松岡 亮佑	高橋真奈美	
	松田 昂也	小森谷卓也	
	高舘 俊成	吉田 明正	
	江夏 彩香	大塚 一輝	
	悴田 友也	中島 茜	
	北島 歩	登坂 貴子	
	大塚真利恵	五十嵐 彩	
	福島 正志	蛭間比呂志	
	小島 訓誉		
監事	国嶋 武	中里 美佳	
会計	松田 昂也		
研究部	松岡 亮佑	高橋真奈美	
専門委員長			
陸上競技	倉持 敬行		
柔道	五十嵐元子		
サッカー	松岡 亮佑		
卓球	高木 浩行		
野球	島野 和典		

ソフト	上遠野隼汰
バスケットボール	鈴木 敏道
バレーボール	野中 翔平
ソフトテニス	下山 和章
水泳	大橋功二夫
剣道	松田 昂也
バドミントン	安藤 睦
体操	酒井 美季
ダンス	大塚真利恵
テニス	秋山 佳奈

3. 年間活動報告（平成30年度）

- 5月10日 行田市中体連総会(南河原中)
 - 5月22日 通信陸上競技会
(熊谷ｽﾍﾟｰｽ文化公園陸上競技場ｸﾞ)
 - 6月7日 行田市体育主任会(南河原中)
 - 11月6日 保健体育授業研究会準備会
(南河原中)
 - 11月13日 体力向上授業研究会(南河原中)
 - 3月5日 行事研究協議会(南河原中)
 - 3月19日 常任理事、会計監査(南河原中)
- ※上記以外に、北埼玉地区中体連主催の大会へ出場したり、授業研究会や研究協議会に参加したりしている。
- 7月 北埼玉地区夏季総合体育大会
 - 10月 北埼玉地区秋季体育大会
北埼玉地区駅伝競走大会
 - 11月 北埼玉地区保健体育研究協議会(南河原中)
- 北埼玉地区中体連主催の大会は、県大会の予選会を兼ねており、北埼玉地区20校の種目上位のチームや個人が県大会に、そして関東大会・全国大会に出場している。
- また、県中体連や県教育委員会主催の研究協議や講習会に参加し、保健体育の授業や運動部活動の指導力向上に努めている。

4. 体育授業研究会のまとめ

第33回中学校体育授業研究会

期 日 平成20年11月20日（木）

場 所 行田市立行田中学校

研究主題

「主体的に運動に取り組み、仲間と共に高め合える生徒の育成」

～生徒一人一人を伸ばす評価と指導法の工夫～

授業者 安藤 秀一【器械運動(マット運動)】
五十嵐元子【陸上競技(長距離走)】

第36回中学校体育授業研究会

期 日 平成23年6月15日(水)

場 所 行田市立長野中学校

研究主題

「仲間と友に汗をかき、主体的に学び鍛える生徒の育成」

～自ら学んだコツ・感覚を、自分の言葉で伝え合う体育授業の実践～

授業者 登坂 貴子 五月女 一義

【球技(バレーボール)】

島野 和典 木谷 文也

【球技(ソフトボール)】

第38回中学校体育授業研究会

期 日 平成25年10月25日(金)

場 所 行田市立見沼中学校

研究主題

「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる体育授業の実践」

～生徒一人一人のよさを見つけて伸ばす体育授業を目指して～

授業者 武士俣 豪志【球技(バスケットボール)】

第41回中学校体育授業研究会

期 日 平成28年11月1日(火)

場 所 行田市立埼玉中学校

研究主題

「一人一人が活気に満ち溢れた体育授業の実践」

～仲間と共に考え、主体的に学び合う生徒の育成～

授業者 島野 和典【器械運動(マット運動)】

大熊 堇【器械運動(跳び箱運動)】

第43回中学校体育授業研究会

期 日 平成30年5月31日(木)

場 所 行田市立太田中学校

研究主題

「運動の特性にふれる楽しさや喜びを味わわせ、

一人一人を伸ばす授業の工夫」

授業者 高舘 俊成【武道(柔道)】

登坂 貴子【ダンス(創作ダンス)】

5. 行田市体力向上授業研究会のまとめ

平成20年度

場 所 行田市立太田中学校

授業者 山本 真

【体づくり運動(体力を高める運動)】

平成21年度

場 所 行田市立西中学校

授業者 高瀬 恵樹【陸上競技(長距離走)】

平成22年度

場 所 行田市立南河原中学校

授業者 飛田 哲也【球技(バレーボール)】

平成23年度

場 所 行田市立忍中学校

授業者 門井 五雄

【体づくり運動(体力を高める運動)】

平成24年度

場 所 行田市立行田中学校

授業者 五十嵐 元子【ダンス(創作ダンス)】

平成25年度

場 所 行田市立長野中学校

授業者 悴田 友也

【球技(ソフトテニス)ネット型】

平成26年度

場 所 行田市立見沼中学校

授業者 武士俣 豪士

【体づくり運動(体力を高める運動)】

平成27年度

場 所 行田市立埼玉中学校

授業者 菅谷 吉磨【武道(柔道)】

平成28年度

場 所 行田市立太田中学校

授業者 篠崎 結 登坂 貴子

【陸上競技(長距離走)】

平成29年度

場 所 行田市立西中学校

授業者 大塚 真利恵 村岡 真美

【ダンス(フォークダンス)】

平成30年度

場 所 行田市立南河原中学校

授業者 蛭間 比呂志 福島 正志

【器械運動(マット運動)】

行田市弓道連盟

1. 沿革

当連盟が設立し活動を始めてから40年余りが経つ。昭和53年3月江守良之氏が弓道場建設の請願書を33名の賛同者の署名を添えて、市議会に提出。これと併行して弓道連盟設立準備会及び総会が同年4月20名の出席者によって開催され、ここに行田市弓道連盟が設立されたのである。

連盟が設立する以前忍弓友会という弓道仲間（足袋会社の経営者や商店主）の団体が大正の初期から昭和の戦前まで存在し、日々会員同士が道場（現在の向町「婦人ホーム」近く）で行射を楽しむほか、外部の愛弓家達と親善射会が催され本庄、深谷、熊谷等から多数者が参加、また大正14年に東照宮例大祭に因んで実施された弓道大会には関東一円から愛弓家が集まり、行田の弓道がクローズアップされた。

この忍弓友会にはのちに全日本弓道連盟理事、参与を歴任し、「弓道教本」第一巻の「基本体の諸動作」のモデルに登場されている橋本與三郎先生がいた。先生は大正2年行田市桜町に生まれ平成6年に逝去された。先生は東行田駅近くで奴足袋株式会社を経営されていたが、敗戦の混乱の中で忍弓友会が消滅したのちも自宅に道場（三人立ち）を建て、高校生や社会人に開放し熱心に指導された。道場のないままスタートした行田高校弓道部は暫くの間、橋本道場で先生から直接指導を受けたという。弓道を志す者にとって橋本道場は貴重な錬成の場であった。先生は平成6年逝去にあたり十段位を追授された。なお、行田市弓道連盟は昭和53年の発足にあたり、特別会員に推挙している。

行田市弓道連盟初代会長は江守良之氏が就任。昭和53年5月市体育協会への加盟も行われた。弓道の錬磨を通して会員相互の親睦を図ることを目的に活動を開始した。道場のない間は、市内清善寺境内城東会館を借用して稽古を始めた。昭和54年5月に富士見公園内の武蔵水路沿いに三人立ちの市営弓道場が完成。本道場が建設される間の仮道場で手狭ではあったが、稽古場を得て、その

成果は如何なく発揮され、各種競技会に参加して、個人団体共に優秀な成績を収めることとなった。平成2年7月に念願の行田市弓道場が総合公園内に、近的射場6人立ち、遠的射場4人立ちの県下には数少ない立派な弓道場が完成された。連盟では土、日、祝日を稽古日と定めて道場を借用し、広い道場で充実した稽古が出来るようになり、現在までに多くの有段者、称号者を輩出した。また市民体育祭弓道大会等冠大会や研修会などの設営も容易になり、連盟の活動も一段と進展している。



近的射場

2. 活動報告

会員数は年によって若干増減があるものの、大体50名前後で推移し活動を続け、稽古に励んだ結果、称号者5名、有段者多数を輩出している。連盟の事業活動も10年間に多少の変転はあるが、主な活動は次の通りである。

(1) 定例稽古日

第一、第三土曜日、毎日曜日、祝日の13時30分から16時30分までを稽古日時として道場を借用し、会員が利用しやすいように配慮している。いつでも近的、遠的の稽古ができるようになっている。

(2) 月例射会

月例射会は1月の新年初射会から始まり、12月の納射会で終わる毎月の重要な行事の一つである。射会は近的競技が主体であるが、7～8月の夏場には遠的競技を行うことにしている。入賞は低段者と高段者に分け1位から3位までに、賞品が贈られる。近的競技では必ず一手は審査方式で行うこととし、高段者は原則として和服を着用することを心がけて、昇段昇格審査に備えている。

(3) 初心者教室

連盟では会員の拡大を図ることは大切な事業であり、会員を殖やすために毎年4月の市報ぎょう

だに初心者教室参加者募集の案内を掲載し、10名を限度として5～7月までの毎週日曜日午前中の2時間6回程度の指導を行うこととしている。また、初心者教室終了後、入会した会員にはフォローアップ教室と称して2か月程度毎週日曜日午前中の2時間引き続き指導を行っている。

(4)市民体育祭弓道大会

平成17年度までは東照宮例大祭に因んで春季武道大会が4月に開催されていたが、諸事情により継続が難しくなった。そこで今まで会員と市内の高校弓道部員で行われていた市民体育祭弓道大会の規模を拡大して、春季武道大会と同様に県北地区各連盟会員を招いて開催することにした。弓道大会は体育祭前日の土曜日午後に開催しており、賞品には行田名物の奈良漬けを用意しており、参加者に喜ばれている。翌日の体育祭当日は体育祭入場行進開会式の終了後直ちに会員のみによる市長杯争奪戦を行い前年度優勝者にはレプリカの贈呈があり、日頃の修練の成果を競っている。



道場の門

3. 連盟の運営

事業は4月～翌年3月で行われ、役員、行事計画、予算など4月の定期総会で決定される。役員の任期は2年で、その構成は会長、副会長2名、会計2名、幹事3名、監事2名となっている。会の運営は役員を中心に会員の協力の基に行われている。会費は年額6,000円、入会金1,000円県連会費1,500円で運営されている。定例稽古日の道場使用料は、連盟で負担。それ以外は個人負担となる。道場の快適な利用を図るため、市体育協会、総会公園管理者との連絡を密にし、危険防止対策を始め、的の張替えなども会員の協力を得て当番を定めて、いつでも快適な稽古が出来るように配慮している。



平成30年12月納射会

(1)役員及び会員構成（平成30年3月現在）

(イ)役員

会長	中島憲一
副会長	渡邊英行 樋口和広
会計	山田昇 補佐 木元千恵子
幹事	金子修 土屋郁代
監事	栗原芳江 月吉美智子

(ロ)会員の構成

称号者 5名 有段者 43名 他7名
男子 32名 女子 23名

(2)今後の課題

行田市の道場は、県下でも数少ない近的・遠的射場を併設した、素晴らしい道場である。また、忍藩の時代には三十三間堂通し矢競技で活躍した忍藩士、明治時代には大日本武徳会の湯本半兵衛先生、昭和時代には橋本與三郎先生と偉大な先生方を行田は輩出している。当弓道連盟は、その偉大な諸先輩の遺志を受け継ぎ、後進に伝えていくことが使命のひとつである。そのためにも、多くの弓道人を育て、共に修練していく愛好者を集めていくため初心者教室の充実や経験者が再び始められる機会を作り、さらなる会員増強と射法射技の向上を図りたい。



平成30年12月納射会参加の連盟会員

行田市体操連盟

1. 沿革

2020年、オリンピックの年に当連盟は創立45周年を迎えます。

1975年、体操は全ての競技の基礎であると考え、行田市内の小学校から逆上がりが出来ない児童をなくそうという基本方針のもとに、多数の方々のご尽力を賜り、体操教室を発足しました。

スタート時は月曜日の夕方1時間、行田市民体育館にて（現在のバスターミナルの所にあった体育館）生徒がわずか7人で開始しました。ここが体操教室の原点です。

1984年……親子クラス ・ 幼児クラスを開校

1985年……1年生クラス・Fクラス開校

1987年……市民体育祭エキシビジョンに参加

1988年……さいたま博覧会、自主イベント参加
新体操クラス開校

1990年……15周年記念演技発表会を行う
育成コース開校

1992年……北埼玉ジュニア体操競技親睦大会開始

1993年……夏休み、全クラス合同
レクリエーション大会開始

1994年……筋肉バトル大会開始

1995年……20周年記念演技発表会を行う

2000年……25周年記念演技発表会を行う
Eコース開校

2001年……Kコース Lコース開校

2002年……練習場所がグリーンアリーナに移動

2005年……30周年記念演技発表会を行う

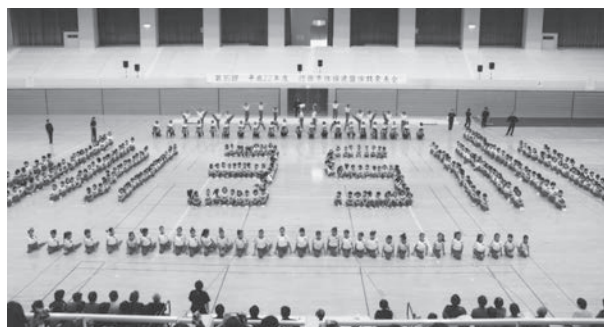
◎体操教室の練習日程

	クラス	時間	対象
水	親子クラス	14:30～15:30	3歳児、年少学年児とお母さん
	幼児クラス	15:30～16:30	年中児
	1年生クラス	16:30～17:30	小学1年生
	Fクラス	17:30～18:30	運動が苦手な小学生
火	Eクラス	15:30～16:30	年長児
	Aクラス	16:30～17:30	小学2年生
	Bクラス	17:30～18:30	小学3、4年生
	Cクラス	18:30～19:30	小学4年生以上
土	Kクラス	14:00～15:00	年長児 小学1、2年生
	Lクラス	15:00～16:00	小学3年生以上
金	新体操クラス	17:30～20:00	2年生以上希望者のみ

2. 10年間のあゆみ（活動報告）

生徒が練習成果を発表することと、卓越した演技を鑑賞する事を目的として、毎年12月に演技発表会を開催しています。

ゲストとして、毎年健康体操クラブの方々にご出演を頂いております。招待選手として第一線でご活躍されている方々にパワー溢れる素晴らしい演技をご披露していただきました。



2009年・日本女子体育大学チアリーディング部
・ウエイトリフティング、今銚一恵選手

2010年・創立35周年記念イベント（4月）

冨木杏奈 親子コンサートを行う
・35周年記念演技発表会を行う

日本体育大学体操部

2011年・埼玉栄高等学校体操競技部

加藤凌平（高校3年時）来演
・東京ジュニア新体操クラブ（個人）

2012年・埼玉栄高等学校男子新体操部

2013年・日本ラート協会 現役トップ選手
（世界大会で総合優勝、入賞の方）

・熊谷女子高等学校チアリーディング部
・現役で活躍している卒業生

2014年・日本ラート協会 現役トップ選手

2015年・創立40周年記念イベント（6月）

冨木杏奈「自分らしく生きる」
講演とミニコンサート行う

・創立40周年記念演技発表会を行う
日本体育大学 体操部

2016年・パフォーマー集団「PADMA」
（モンスターBOX17段・一輪ラート）

2017年・フリースタイルフットボール

横田陽介（世界大会準優勝）
・アクロ体操

・對馬紘也・石川純のデュオ
（卒業生、行田在住のテノール歌手）

2018年・日本体育大学 体操部

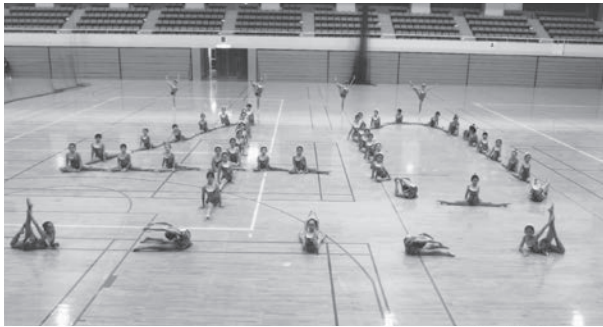
<発表会を通して>

生徒たちは、器具発表で挑戦したい技を決めて、一生懸命練習に取り組みます。オープニングや手具発表は集団としての演技を発表します。

ゲスト出演は、60歳代～90歳代の健康体操クラブの方々ですが、楽しく参加できる事が幸せだそうです。演技をご覧になった同世代の方は、勇気をいただくそうです。

招待選手は子供たちにとって憧れや夢となり、進路の目標となります。実際、熊谷女子高校のチアリーディング部、栄高校の体操部・新体操部、日本体育大学体操部に入部し活躍しています。

体操は全てのスポーツの基本であります。音楽と運動は日常生活において最も必要不可欠のものです。子供の時に見た事、体験した事が人生の糧になります。本物の芸術、素晴らしい音楽等、子供たちにより良い環境を提供したいと存じます。



<体操教室の練習>

各クラス、準備体操・ボール・縄跳びなどの手具体操、マット・跳び箱・鉄棒・トランポリンなどの器具体操を練習しています。

学校体育に通用する内容を取り入れていますが、達成目標は個人差があり、生徒の個性と能力を大切に指導しています。

新体操クラスは、体操教室に入っている2年生以上の女子が対象です。毎年、代々木第一体育館にて開催される日本体操祭に参加します。出演した生徒にとって生涯良い思い出になっている様です。

育成コースは、行田体操クラブとして、週4日練習をして、東日本ジュニア体操競技選手権大会・埼玉県ジュニア体操競技選手権大会・彩の国少年少女体操競技大会・全国少年少女体操交歓大会・三菱養和体操競技大会・北埼玉ジュニア体操競技大会に出場し、団体、個人で多数入賞しています。

<大会参加入賞記録>

2010年8月第41回全国少年少女体操交歓大会

9月第25回三菱養和体操競技大会

中級個人総合優勝(石塚耕大)

中級団体総合優勝(石塚耕大・青木直樹・役田真人・高橋健太)

*両大会共、同一の成績・同一メンバー

10月第27回埼玉県ジュニア体操競技選手権大会

2部個人総合優勝(石塚耕大)

2部団体総合優勝(石塚耕大

・役田真人・高橋健太・棚澤勇哉)

2014年8月全日本ジュニア体操競技選手権大会

2部団体総合2位

(石塚耕大、栄高校2年生時)

2016年8月第47回全国少年少女体操交歓大会

種目別 鉄棒優勝(岡戸祥馬)

種目別 あん箱優勝(有輪幸斗)

上級団体総合優勝(岡戸祥馬

・有輪幸斗・原口仁雅・原口頼人)

2017年7月東日本ジュニア体操競技選手権大会

男子Aクラス種目別 跳馬2位

(岡戸祥馬)

2018年8月全国少年少女体操交歓大会

上級個人総合優勝(野口仁雅)



3. 70周年を迎えて

指導員が年々高齢になり、補助も大変になりつつある現状、子供たちと一緒に走り回れる若い方に入ってもらえるように取り組みたいと思います。運営スタッフ

会長	矢嶋 太一	指導員	鈴木 文子
理事	中島 尚		若山 澄恵
評議員	若林千代子		長谷川陽子
	小泉 貴史		田熊三津子
指導員	山口喜一郎		鈴木 雅巳
	織茂 純子		宮崎 正浩
	小野紗和耶		

行田市サッカー協会

1. 沿革

行田市体育協会の創立70周年という記念すべき年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

日頃、行田市繁栄の為に尽力されている職員の方、並びに他団体や他協会の方々に感謝申し上げます。

サッカー協会においては市内でのリーグ戦や諸大会の開催も出来ない現状となっております。

加盟していた社会人チームも他市町村へ流れている状況です。

市内に芝生のグラウンドが無いのもチーム離れの要因となっており、協会役員を始めとし市内での大会開催が開けるよう、努力が必要と考えます。

2. 役員

名簿

年 度	会 長	理事長	事務局長
2009年（H21年）	野口 英昭	奥川 士郎	奥川 士郎
2010年（H22年）	野口 英昭	奥川 士郎	奥川 士郎
2011年（H23年）	栗原 美雄	佐藤 勝	若山 明男
2012年（H24年）	栗原 美雄	佐藤 勝	若山 明男
2013年（H25年）	栗原 美雄	佐藤 勝	若山 明男
2014年（H26年）	栗原 美雄	佐藤 勝	栗原 美雄
2015年（H27年）	栗原 美雄	佐藤 勝	栗原 美雄
2016年（H28年）	栗原 美雄	佐藤 勝	栗原 美雄
2017年（H29年）	栗原 美雄	佐藤 勝	栗原 美雄
2018年（H30年）	栗原 美雄	佐藤 勝	栗原 美雄

3. 協会活動

行田市サッカー協会として、日頃少年サッカーにご協力頂いている市内サッカー少年団の指導者や近隣市町村の指導者のスキルアップを目的とした指導者研修を行っております。

2日間で行われるJFA公認D級コーチは4回の開催で約130人の公認指導者を輩出しております。

また、JFA公認C級コーチは4年ごとに更新ポイントが必要となることから、D級講習会と併せリフレッシュ講習会を開催し、ポイントの付与を埼玉県サッカー協会へ申請しております。

講習会には埼玉県サッカー協会より指導者へ指導のできるインストラクターを招き、日本サッカー協会の現状指導方法の講義や実技の指導をお願いしております。

2019年も開催予定ですので興味のある方はご連絡ください。

4. 市内唯一のグレイト集団

行田グレイトティット (四十雀)

40歳以上で構成される県登録のサッカーチームで年間を通して各地を回り、リーグ戦をこなしております。



行田市サッカー協会を担う精鋭と姫監督！

【主催大会】

【埼玉県シニアサッカーリーグ】 H28.4.10 ~ H29.2.26 会場：県内各地

0-40 1部			0-40 2部			0-40 3部		
1	SOL TODA	1	川越シニア SC	1	吉見エスカーラ FC			
2	クマガヤ SSC シニア	2	パルス FC	2	大宮シニア FC			
3	FC 浦和シニア	3	川口シニア SC	3	東春 '72 シニア			
4	KFC FUKAYA	4	与野シニア FC	4	雲居四十雀 SC			
5	セレソン所沢シニア	5	越谷シニア SC	5	FC Coicoq シニア			
6	新明シニア SC	6	本庄アイベックス	6	熊谷ブーメラン			
7	F・Stantion わしがニア	7	上尾シニア	7	鴻巣ユナイテッド			
8	FC SEIBUDAI Senior	8	東松山ベレーニア	8	FC La_haina			
9	VAMOS 鳩山	9	深谷 SFC フェニックス	9	ジョイファーストめぬま			
10	八潮シニア FC	10	秩父四十雀 SC	10	蕨シニア SC			
11	東松山オールドパワーズ	11	熊谷セントラル戦隊団	11	小川スーパースターUND			
12	西武クラブ・飯能	12	小鹿野バンビノ UND	12	戸田シニア SC			
		13	行田グレイトティット					

現在は埼玉県シニアサッカーリーグにて3部に甘んじておりますが今後の活躍を期待しております。

尚、自分も40歳過ぎたけどサッカーやりたい方、興味のある方はサッカー協会までお問い合わせ下さい。

上段左から

金子、岩井、村松、工藤、黒沢、中里、

下段左から

日下部(哲)、内藤、細谷、日下部(純)、粕谷

以下、監督談

他14人計25名のメンバーで今年度県シニア40(3部)でプレーをしています！

勝ちに拘りすぎず集まれた仲間と1年間サッカーを通して楽しんでおります。

県シニア40で唯一女子を仲間と受け入れサッカーの楽しさ満喫出来るこの行田のチームメイトとこれからも楽しく試合をしていければと思っています。

その他、他市町村の50歳以上のチームに参加されているプレーヤーもおります。

怪我の無いよう、楽しい

association-footballを満喫してほしいと思います。

行田市テニス協会

1. 沿革

行田市テニス協会は、市民の交流と健康づくりを目指して昭和56年6月に市内の企業クラブと教育委員会の支援をいただいた地域・市民クラブなど9団体で発足しました。発足後の昭和61年8月に総合公園庭球場がオープンし、市民のテニス志向は一気に高まり最盛期には20団体・会員数768名にまで拡大しました。しかし、その後、個人のニーズの多様化や経済の低迷が長期化する中でクラブ数・会員数は半減する事態に至りました。

そうした状況下で、2012年度に念願であったテニスコート（オムニコート）の大改修が行われたことや世界四大会の一つ2014全米オープンテニス大会シングルスで錦織圭選手（当時24歳）の準優勝がきっかけとなり、ジュニア層の急増などテニスブームの再来を招いてきました。また、2018同大会で大阪なおみ選手（当時20歳）が日本人初の世界チャンピオンになるという歴史的快挙を成し遂げました。

こうした中、行田市からプロテニス選手が誕生し、これに続くジュニア選手達が世界大会や全国大会などで活躍してきています。



※横田大夢さん、全日本代表クラスのジュニア選手。平成30年現在 高校2年生。

当協会では、このようなテニス環境が変化していく中で普及活動と技術力の向上、選手育成、仲間づくりを継続的に進めてきました。

この間、普及委員会を中心に早起きテニス教室やジュニアクラブ、学校テニスクラブ等の活動支援、また競技委員会では市長杯・会長杯テニス大

会、親睦を兼ねたクラブ対抗戦、ミックスダブルス大会を、更なる仲間づくりを目指した東西対抗戦、チーム対抗戦を実施しています。また、親睦を目的とした他市テニス協会との交流大会も実施しております。

こうした様々な取り組みの結果、ジュニアから高齢者プレーヤーが徐々に増え活気を取り戻してきており、現在は22団体、約600名が所属し回復傾向にあります。

これからも、テニス活動を通して技術向上に努め、健康や生きがいづくり、仲間づくりを進めつつ、組織運営に関われる人材の育成に取り組んでまいります。



※平成30年行田オープン（市長杯争奪テニス大会）

2. 事業報告

(1)協会の主な取り組み（抜粋）

昭和56年6月：行田市テニス協会発足

- ・クラブ対抗戦（S56～）
- ・ミックスダブルス大会（H8～）
- ・東西対抗戦（H23～）
- ・チーム対抗戦（H26～）

(2)普及活動

- ・指導者技術講習会（S57～）
- ・早起きテニス教室（S57～）
- ・地域・学校テニスクラブへの支援
- ・他市テニス協会交流試合

(3)対外大会への出場

- ・埼玉県都市対抗戦（H27～）
- ・埼玉県北部都市対抗戦（S56～）
- ・埼玉県北部テニス選手権大会（S60～）
- ・埼玉県北部ミックスダブルス大会（H5～）

3. 役員

(1)歴代会長

初代会長 土井 博（S56～60）

- 2代会長 柴田 隆次 (S61~H3)
- 3代会長 朝見 康夫 (H4~H14)
- 4代会長 吉田 隆 (H15~H21)
- 5代会長 山口 和之 (H22~)

(2)現在の役員紹介

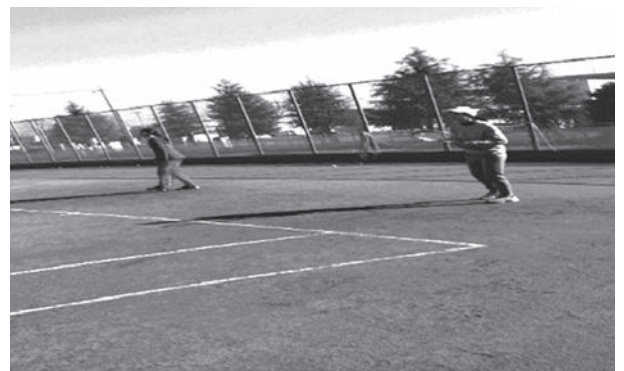
- 会 長 山口 和之
- 顧 問 朝見 康夫
- 吉田 隆
- 副 会 長 遠藤 修治
- 副 会 長 山崎 博司
- 北部都市テニス協会理事 森下秀友
- 理 事 長 山崎 博司
- 副理事長 佐向 猛
- 競技委員長 山崎 博司
- 副競技委員長 佐向 猛
- 普及委員長 遠藤 修治
- 副普及委員長 坂本 幸雄
- 事務局長 川畑 貴司
- 事務局員 根岸かおり

(3)所属団体 (22団体)

- | | |
|-------------|------|
| AZZURRI | 遠藤修治 |
| エイティーテニスクラブ | 野中 |
| WETC | 佐藤 |
| IWASAKI TC | 小島 |
| 行田テニスクラブ | 山口和之 |
| コスモステニスクラブ | 山本洋子 |
| 進修館高校 | 近藤 |
| スマッシュテニスクラブ | 堀口修司 |
| ティ・エステックTC | 森下 |
| F・T・Cテニスクラブ | 三品 功 |
| 持田テニスクラブ | 白鳥 |
| 星河テニスクラブ | 梶原 |
| Team Ai | 加賀谷 |
| ふるふる | 根岸 |
| ツーティックTC | 河内 |
| アトム | 栗原 |
| ものづくり大学テニス部 | 菅谷 |
| ETC | 横田 |
| OJTC | 高橋 |
| ショーワテニスクラブ | 大熊 |
| Team.A.O.T | 関根 |
| アズチル | 菅原 |



※ジュニアサークルとして、ハイレベルな指導性と練習量を持つ行田ジュニアテニスクラブ／E T C



4. 今後の課題

協会発足後、40年を経過しました。日本のトッププレイヤー大活躍の影響や高齢化社会到来の中で、市民の中から新たなテニスプレーヤーも誕生しています。こうした現状を受け止めきめ細かく対応していく必要があります。

今後もテニス教室の開催や各種クラブ活動支援を通じた普及活動や、ジュニア、高齢者層など階層別の大会枠の創設、女性の競技力の向上を図っていきたい。そのために、各種講習会に参加し指導者やクラブ員のレベルアップを進めると共に組織運営に携われる若い人材の確保に取り組んでいきたい。



※大会 表彰式風景

行田市ゲートボール協会

1. 沿革

行田市においては昭和53月から、体育指導委員の積極的な指導のもと40チーム800人を超える土台が作られ、行田市老人クラブ連合会ゲートボール部が発足した。

昭和54年に連合会による第一回大会が行田市アリーナで開催され現在も継続されている。

昭和59年1月11日(勅)日本ゲートボール連合会長笹川良一氏により全国6団体が1つにまとめられ、日本、中国、韓国、及びヨーロッパの各国におけるルール統一が図られた。

昭和60年2月26日 埼玉県ゲートボール連盟発足
会長長島恭介

昭和57年3月13日 行田市ゲートボール協会発足

昭和58年3月1日 行田市体育協会に加入

2. 活動状況

初代会長 大沼 市郎 昭和57年3月13日

二代会長 柿沼 三郎 平成3年5月15日

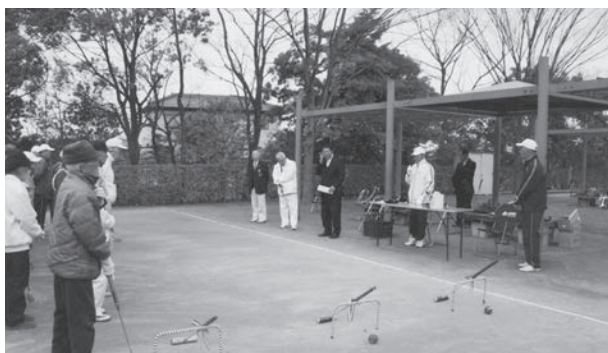
三代会長 田島 一衛 平成4年5月15日

四代会長 原口一二三 平成10年5月1日

五代会長 八木橋恒夫 平成12年4月25日

六代会長 仁木 広司 平成17年5月1日

七代会長 斉藤 和夫 平成20年4月30日



大会開会式

元込公園専用コート親善大会

2013年11月28日工藤行田市長様のご臨席を頂き親善大会が盛大に開催されました。その日は長谷見体協理事、埼玉県松本会長も出席来賓の始球式で熱戦の幕が開きました。

4回戦総当りの結果は

優勝 富士見チーム

準優勝 上荒井チーム

3位 谷郷Aチームでした。

斉藤会長から表彰式があり事故やケガも無くプレーを楽しむ事ができましたとあいさつがあり最後に埼玉県ゲートボール会長は子供から高齢者まで幅広い世代が楽しめるスポーツとして長く続けられるスポーツとして愛好家を増やして下さいとあいさつがありました。

地域を通じてゲートボール



説明 大会を楽しむ体協女子会員

第38回長野地区体協会長中川和久主催のゲートボール大会が2018年11月11日(日)長野コミュニティ広場で開催されました。高齢化に伴い活動が少なくなりつつあるなかで初心者育てようと声を掛けたところみんな初心者なので気楽に参加できる(体協会員) 最初に打ち方など基本だけ教えてあとは楽しんでもらうのが一番ですからうるさく言わないように心がけています。

大会のお世話はゲートボール会員会長のチーム全員で指導をしています。

参加チームは体協男子、女子、富士見A B、堀之内A 5チームでした。

誰でも楽しめるゲートボールはその一助となる、最適なスポーツといえます。今後も体協と相談しながら続けていきたいと思ひます。

3. 役員等について

・会長 斉藤 和夫

・副会長

事務局	小林	武夫
・支部長	忍	今井 よし子
	北	吉田 三郎
	北	柏木 守人
	東	関田 重雄
・監事	吉田	竹夫
	島澤	寿夫

4. 今後の活動について

どこの地域でも高齢化が進みゲートボールのチーム作りが難しくなっています。

心身ともに健康な生活を営む上でスポーツが不可欠なものと広く認識されております。

このような中で「ゲートボールは老若男女が一緒に楽しめる稀なスポーツです。」と会員一人が一人を増やすことを全員で取り組みなお一層の努力をしなければと思います。ゲートボール発祥国として、日本の復活は重要になります。

行田リトルシニア野球協会

1. 沿革

昭和49年3月発足以来、約45年を数えます。
平成30年の卒団生は41期生となります。
設立時からのモットー「野球はまず礼儀から」
・「感謝の気持ちをもつこと」を引き継ぎながら
新たな伝統を作るべき指導者・父母会一丸となり
取組んでいます。

また、野球を通じて「忍耐力」、「協調性」を
学んで今後の人生の基礎となることを確信して
おります。

2. 地下足袋トレーニング

足袋の町行田のPRではありませんが、約5年
程前から地下足袋を用いたトレーニングを導入し
ております。

中学生が高校生と同じ条件で野球をするには、
計画的な体力づくりが必要となります。そこで、
自重を使ったトレーニングに加えて、地下足袋を
取り入れた下半身の強化を行っています。

地下足袋によって、今まであまり使っていなか
った足底の腹筋が鍛えられ、地面をしっかりつか
む感覚を身につけることができ、力強く地面を蹴
って走ることができるようになり走力の向上と下
半身の強化につながっている。また、軸足で地面
をつかむことで打撃や守備でのバランス良く動い
たり、素早く反応したりできるようになってきて
おります。



3. 少年野球大会の開催

地域の少年野球への貢献として、平成20年か
ら行田リトルシニア少年野球大会を開催しており
ます。

大会の優勝チームの記録

平成20年度	若小玉少年野球チーム
平成21年度	埼玉少年野球チーム
平成22年度	東フェニックスチーム
平成23年度	星河少年野球チーム
平成24年度	西小少年野球チーム
平成25年度	西小少年野球チーム
平成26年度	西小少年野球チーム
平成27年度	西小少年野球チーム
平成28年度	泉小少年野球チーム
平成29年度	スラッガークラブチーム

4. 大会の記録 (平成21年度～)

平成21年度	第8回群馬テレビ`中学生硬式野球大会	準優勝
	北関東支部北部ブロック長杯	準優勝
	北関東支部フットボール大会	第三位
平成22年度	第9回群馬テレビ`中学生硬式野球大会	準優勝
	北関東支部フットボール大会	優勝
	関東連盟秋季大会出場	
	第1回林和男杯旗国際野球大会出場	
平成23年度	北関東支部フットボール大会	優勝
	北関東支部秋季	準優勝
	関東連盟秋季大会出場	
	北関東支部北部リーグ戦	優勝
	北関東支部北部ブロック長杯	第三位
平成24年度	北関東支部秋季大会兼ミス`旗争奪戦	第三位
	北関東支部フットボール大会	優勝
	北関東支部北部ブロック春季大会	優勝
	北関東支部夏季大会	準優勝
	北関東支部北部リーグ戦	優勝
	関東連盟春季大会出場	
	関東連盟秋季大会出場	
	第1回西武ライオンズ`カップ`大会出場	

平成25年度

北関東支部春季関東大会出場決定戦	優 勝
関東支部春季大会	第三位
北関東支部フットサル大会	第三位
北関東支部北部リーグ戦	準優勝
北関東支部北部フットサル長杯	第三位
関東連盟春季大会出場	
第4回林和男杯旗国際野球大会出場	

平成26年度

北関東支部北部フットサル長杯	第三位
----------------	-----

平成27年度

北関東支部さくら大会	準優勝
関東連盟春季大会出場	
第4回秩父カップリトルシニア硬式野球大会	第三位
北関東支部北部リーグ戦	優 勝
北関東支部北部フットサル長杯	優 勝

平成28年度

第5回秩父カップリトルシニア硬式野球大会	優 勝
----------------------	-----

平成29年度

北関東支部春季大会兼埼玉新聞社旗	準優勝
北関東支部夏季大会	第三位
東フットサルリトルシニア野球宮崎大会出場	
北関東支部北部リーグ戦	優 勝

平成30年度

第7回秩父カップリトルシニア硬式野球大会	優 勝
----------------------	-----



第5回秩父カップリトルシニア硬式野球大会 優 勝



第7回秩父カップリトルシニア硬式野球大会 優 勝

5. 役員体制

役 職 名	氏 名
会 長	鈴木 聖二
副 会 長	秋山 佳子
事務局長	加藤 晃
審 判 長	石黒 修
副審判長	大塚 裕己
副審判長	角 幸一
副審判長	松田 芳明
監 督	望月 和義
コ ー チ	茂原 浩一
コ ー チ	佐藤 秋男
コ ー チ	竹内 裕
コ ー チ	三森 和行
コ ー チ	福島 一康
コ ー チ	高橋 稔人
コ ー チ	富沢 幸一
コ ー チ	石川 卓

6. OBの活躍

- ・第99回全国高校野球選手権大会 優勝
花咲徳栄高校（第37期生 太刀岡 蓮）
- ・第97回全国高校野球選手権大会出場
花咲徳栄高校（第35期生 櫻井 健）
- ・第95回全国高校野球選手権大会出場
浦和学院高校（第34期生 小島 和哉）
- ・第93回全国高校野球選手権大会出場
花咲徳栄高校（第31期生 田中 悠生）
- ・第85回記念選抜高校野球大会 優勝
浦和学院高校（第34期生 小島 和哉）
- ・第87回選抜高校野球大会 ベスト4
浦和学院高校（第35期生 臺 浩卓）

行田市ソフトボール協会

1. 沿革

行田市体育協会創立70周年、誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

行田市ソフトボール協会も地域コミュニティ、スポーツの展開を目的とし、昭和50年に設立され平成30年度に44周年を迎えることができました。

全ての関係者の皆様ご支援ご協力に感謝申し上げます。当協会主催のソフトボール大会は

- ①行田市ソフトボール大会（参加チーム60）
- ②行田市女子ソフトボール大会（参加チーム4）
選手の高齢化に対応し
- ③行田市実年ソフトボール大会（参加チーム20、
年齢50歳以上）
- ④行田市シニアソフトボール大会（参加チーム12、
年齢59歳以上）の4大会が春秋年2回開催されて
おります。然しながら、スポーツの多様化、ス
ポーツ人口の高齢化に伴い、当協会に登録数が年々
減少傾向にあり協会としても大きな課題となって
います。



今後とも地域コミュニティの核、生涯スポーツ
の中心であるソフトボールをより多くの市民に参
加していただくためにチーム編成条件の変更を行
い平成28年迄は行田市在住、行田市在勤、平成29
年から埼玉県在住、行田市在勤、大学生限定参加
と規則を緩和しましたが、大きな成果には至りま
せませんでした。

その他、県からの要請で主管にて県東大会、埼
玉県大会を開催しております。又、行田市ソフト
ボール協会登録とは別に埼玉県登録を行い各大会

の頂上を目指し、埼玉県大会に三桜ソフト（一
般）、行田シニア、行田ハイシニア、行田スパー
シニア、埼玉ラビット（中学女子）、行田少女ソ
フトクラブ（小学生）が参加し、全国大会に出場
するなど頭角を出し始め、今後多いに期待してい
るところです。平成31年度は節目の90回記念大会
を行う予定で考えております。有意義な大会にな
る様、多くの意見を反映し、計画していきたいと
思います。



2. あゆみ

- 昭和50年 行田市壮年ソフトボール第1回大会
- 昭和54年 審判部設置
- 昭和59年 第1回家庭婦人大会
- 昭和59年 第1回行田市シニアソフトボール大会
- 平成1年 第30回行田市ソフトボール記念大会
- 平成11年 第50回行田市ソフトボール記念大会
- 平成16年 第60回行田市ソフトボール記念大会
- 平成21年 第70回行田市ソフトボール記念大会
- 平成26年 第80回行田市ソフトボール記念大会

3. 平成30年度役員

顧問	田口英樹
顧問	谷口允良
会長	竹内信吉
副会長	大沼隆雄
副会長	渡辺 隆
理事長	須加正司
副理事長	大久保忠
副理事長	荒井清二
事務局長	清水敏弘
事務局長補佐	金澤正久
運営部長	野本 泉
運営副部長	仲内隆夫
運営副部長	八柳則夫

審判部長 安藤恒信
 審判副部長 露原泰三
 監事 根岸弘吉
 監事 栗原幸一郎

【理事】

加藤智数 磯川享宏
 平野治夫 鈴木英也
 佐原 太 清水正則
 小島隆義 漆原ひろみ
 盛合栄一 今井邦子
 猪野 勝 田中みゆき
 國嶋庄一 露原泰三
 栗原智広 岡部 正
 飯野武志
 松村隆史

4. 大会結果

○男子の部

	【優勝】	【準優勝】
平成21年	70回大会バッカス	東一
平成22年	72回大会バッカス	三桜ソフトクラブ
平成23年	74回大会バッカス	三桜ソフトクラブ
平成24年	76回大会バッカス	三桜ソフトクラブ
平成25年	78回大会バッカス	三桜ソフトクラブ
平成26年	80回大会バッカス	城西ソフトボール クラブ
平成27年	82回大会バッカス	飯倉ソフト
平成28年	84回大会南一区	城西ソフトボール クラブ
平成29年	86回大会第三門井 ソフトボール部	オールスターズ
平成30年	88回大会山本 スキャリオンス	オールスターズ



○女子の部

【優勝】

平成26年	60回	長町フレンド
〳	61回	チェリーローズ佐間
平成27年	62回	長町フレンド
〳	63回	長町フレンド
平成28年	64回	長町フレンド
〳	65回	長町フレンド
平成29年	66回	星河レットスターズ
〳	67回	長町フレンド
平成30年	68回	埼玉ラビット
〳	69回	長町フレンド



5. 今後の課題

1. 登録チーム数減少への対応
チーム編成条件の見直しを大幅に行う
2. 審判体制の強化
有資格者約80名に対し協会審判部に参加依頼
及び審判講習会の実施強化
3. 参加型チームへの対応として
現状の1、2部制の見直しを図る

以上3項目を中心に検討し極力現状に近い対応を取り、今後とも生涯スポーツの一環としてソフトボールを通して、地域のコミュニティと健康の増進に取り組んでいきたいと考えております。

行田市婦人バレーボール協会

1. 沿革

昭和47年9月に第1回大会が長野中学校校庭で開催され昭和54年第14回大会から市民体育館と市内の各小中学校体育館で開催されました。

平成22年第76回大会よりグリーンアリーナで一斉開催出来るようになりました。そして平成30年9月第93回親善大会が実施されました。

2. 活動状況

平成21年三市友好都市スポーツ交流バレーボール大会を行田市で開催し、22年には二市友好交流で白河市を訪問、翌年3月に東日本大震災に見舞われましたが10月三市友好都市スポーツ交流の招待を受けて震災被害の残る白河市へ行き更に交流を深めました。

平成24年念願でありました、協会創立40周年記念式典を挙げる事が出来ました。

3. 登録チーム (平成30年4月現在)

荒木地区体協	長野地区体協
1. 荒木A	1. 三北スピリッツ
2. 荒木C	2. 二桜
3. 小見	3. 橋場
	4. 林
太田地区体協	5. 万願
1. 六本木	6. 富士見
太井地区体協	佐間地区体協
1. 門井Candy	1. 三間
2. 深水・棚田	2. 神明
	3. 二佐間
埼玉地区体協	4. 向町
1. さきたま	
2. 杉原	持田地区体協
	1. 五持田マミーズ
星河地区体協	
1. 三谷郷	忍地区体協
	1. 諏訪ドリームズ

須加地区体協

1. 須加

南河原地区体協

1. リバティークラブ

4. 役員 (平成30年現在)

顧問	齊藤八代子	審判長兼副会長	
会長	鈴木 睦子		長島 正子
副会長	伊藤佳代子	副審判長	川鍋 泰子
会計	菅野美智子		森 たか子
事務局	高橋 清美		関口 尚子
	藤沼 道子		小林富美代
			川島 弓子
			中村 揚子

地区代表理事

荒木	権田 信江
忍・太田	清水 和江
太井	寺田富士子
埼玉	榎本 紀枝
佐間	篠原 和枝
須加・南河原	須加 伸枝
長野	飯塚かおり
持田・星河	森 由美子

地区代表審判員

荒木	村社恵理子
忍・太田	中村 揚子
太井	田村真由美
埼玉	田代 敏江
佐間	小池 祐子
須加・南河原	島村恵美子
長野	堀口 麻穂
持田・星河	嶋田 恭子

5. 今後の活動方針

少子高齢化にともないバレーボールを楽しむ若い世代が減りチームが年々減少しています。今後も積極的に活動し多くの方々に婦人バレーボール協会を知っていただけるよう働きかけていきたいと思ひます。また60代、70代と益々健康を維持し生涯スポーツとして楽しく続けていけるよう仲間づくりにも努力して行きたいと思ひます。





平成21年 9月 三市友好都市スポーツ交流
バレーボール大会（行田市開催）



平成24年10月 創立40周年記念式典
（アイトピア）



平成22年 6月 二市友好都市スポーツ交流
バレーボール大会（白河市開催）

平成23年 6月 第27回あじさい大会
（総合教育センター初開催）

平成27年 2月 第57回埼玉群馬対抗
バレーボール優勝大会
（進修館高校）

平成27年 5月 羽生市近隣交流
バレーボール大会（羽生市）

平成29年 9月 第12回行田市中学校
バレーボール選手権大会より
ミニバレーボール教室を開始



平成23年10月 三市友好都市スポーツ交流
バレーボール大会（白河市開催）



2年毎に新人審判員を養成し6回の受講後、認定証を授与します。

また、審判向上のために地区別講習会を行っています。

行田市バスケットボール協会

1. 沿革

行田市バスケットボール協会は平成12年4月1日より新会長に川上新一氏が就任し平成30年度も更なる躍進を継続しています。会長については新事業に精力的に取り組み、改革推進として小学生から一般まで各種の競技会や研修会を開催し、行田市の全チームを対象に技術力の向上と普及に尽力されています。旧バスケットボール連盟より平成12年に協会と改名し、発足より33年の年月を迎えており、現在は小学生大会・中学生大会・一般大会と各世代の垣根を越えた活動を行っており、行田市のチームを統括する、総合バスケットボール協会として成長を続けております。

また、市民の皆様にも喜んで頂ける行事であります市民体育祭・鉄剣マラソン大会・駅伝大会にも積極的に運営補助などに参加をして市民の健康と幸福の一助となる様に、行田市の総合体育の発展に寄与し現在に至っています。



1月 会長杯 中学生大会・開会式

2. 年間活動状況について

- 5月 総会・審判講習会・春季大会（一般）
- 6月 北埼玉郡市夏季中学校大会（県予選）
- 7月 埼玉県青年大会（県予選）
- 8月 総合大会（一般 専門部）
- 9月 総合大会（中学生の部）
- 10月 秋季リーグ戦（一般専門部・県予選）
北埼玉郡市秋季中学校大会（県予選）
- 12月 総合大会（ミニバス 小学生の部）
クリスマス大会 市内外招待大会

- 1月 チャレンジカップ（一般 専門部）
会長杯 中学生大会（中学校専門部）
- 3月 中学生春季交流大会（中学校専門部）



12月小学生クリスマス大会・開会式

3. バスケットボール協会（参加チーム数）

- ・一般 専門部
男子33チーム・女子12チーム（550名）
- ・中学校 専門部（市内のみ）
男子7校 女子7校（200名）
- ・小学生 専門部（ミニバス）（市内外を含む）
男子10チーム 女子16チーム（390名）

4. 10年間のあゆみ（活動報告）

- ・一般 専門部

テイ・エス テック株式会社、埼玉工場のバスケットボール部は埼玉県青年大会にて5年連続で優勝をしました。全国青年大会においては平成21年より9回出場し全国大会で4位入賞と実績を残しています。

また、埼玉県実業団大会では常に上位にて関東実業団選手権大会に参加。関東大会9年連続出場をするなど、埼玉県を代表する強豪チームとして県内外で有名なチームです。

- ・中学校 専門部

行田市立長野中学校の女子が平成30年度まで多年に渡り北埼玉郡市大会にて優勝をして県大会に連続で出場と輝かしい成績を残しております。県大会も常連チームとして（行田市・羽生市・加須市）の代表として活躍をしています。

- ・ミニバス専門部（小学生）

行田ラビッツが平成27年度の埼玉県スポーツ少年団の大会にて優勝をしました。平成30年度には男子の桜ヶ丘ミニバス。女子では、さきたまミニバスが県大会へ出場。一般から小学生まで優秀な成績にて輝く歴史の足跡を残しています。



行田市立長野中学校 女子バスケットボール部

5. 平成30年度バスケットボール協会 役員

会長	川上 新一		
副会長	長島 明彦	副会長	鈴木 敦
理事長	篠塚 稔	副理事長	山口 昌利
副理事長	尾澤 弘樹	副理事長	山田 智弘
総務委員長	進藤 大幹	会計長	松原 滯乃
審判委員長	堀越 和音	会計	鈴木 亜美
競技委員長	山口 昌利	監査長	望月亮太郎
広報委員長	柿沼 貴則	監査	鈴木 圭
普及委員長	尾澤 弘樹	監査	萩原 慧

各種 専門部 委員

一般 専門部 委員長	篠塚 稔
中学校専門部 委員長	鈴木 敏道
ミニバス専門部 委員	安藤 和人
ミニバス専門部 委員	鈴木 敦

行田市体育協会 役員

平成22年度～就任	副理事長	川上 新一
平成28年度～就任	理事	進藤 大幹

行田市行政関係 役員

行田市スポーツ推進審議会

平成29年度～就任	委員	川上 新一
-----------	----	-------



行田市バスケットボール協会 役員

6. 行田市体育協会 表彰

功労賞(一般専門部・中学校専門部・小学生専門部)

平成21年	川谷内 隆	22年	鈴木 敏道
平成23年	鎌田 雄三	24年	山田 智弘
平成25年	望月亮太郎	26年	柿沼 貴則
平成27年	中里 和博	26年	五十嵐元子
平成29年	進藤 大幹	30年	尾澤 弘樹

優秀選手賞 (一般 専門部・小学生 専門部)

平成21年～平成30年まで 9年連続受賞

テイ・エス テック株式会社 埼玉工場

全国青年バスケットボール大会 出場(9回)

関東実業団 選手権大会 出場(9回)

県青年バスケットボール大会 優勝(7回)

平成27年 行田ラビッツ 県大会 優勝

7. 埼玉県 表彰・埼玉県体育協会 表彰

平成25年 埼玉県シラコバト賞 川上 新一

平成28年 埼玉県 体育功労賞 川上 新一



テイ・エス テック 優秀選手賞(9年連続受賞)

8. 日本バスケットボール協会(JBA)の展望

2018年4月よりJBAの改革により実業団・クラブ・教員・家庭婦人が統合され日本社会人連盟と名称も変化をしました。同時に埼玉県バスケットボール協会でも新埼玉県社会人連盟も発足しました。JBA新組織としては(1. BリーグB1・B2・B3)(2. 地域リーグ 関東・北海道・東北・東海・近畿・九州)(3. 都道府県リーグ)(4. 市町村加盟)と各ブロックの入れ替え戦を繰り返しながら上位ブロックを目指し階段を一段ずつ上がるシステムに大きく改革されました。

2019年3月に埼玉県バスケットボール協会は地域リーグ(関東)入れ替え戦に埼玉県代表として行田市所属のテイ・エス テックを推薦しました。日本バスケットボール協会の改革が進み全ての関係者と共に私達の協会も日々精進いたす所存です。

行田市グラウンド・ゴルフ協会

1. 沿革

「埼玉県発祥の地」行田市に「何時でも、どこでも、誰でも」を合言葉に平成4年7月、会員数120名をもって行田市グラウンド・ゴルフ協会が正式に発足いたしました。平成7年には行田市体育協会に加盟し幅広い年齢層に親しまれるニュースポーツとして生涯スポーツの普及、振興に努めてまいりました。

現在市内会員を対象に、当協会主催大会を約270名を超える参加者のもと年4回開催し、生涯スポーツとして、会員相互の親睦を図っております。主な事業として、第10回古代蓮の里大会が平成31年4月22日に524名の参加を得て盛大に開催されました。上記の事業は10年間開催されていません。

平成30年度事業として、7月8日、9日、始めての一泊研修を実施、千葉県九十九里、太陽の里スポーツガーデン、参加者の皆さんと親睦を図って、楽しく交流出来ました。



活動状況

- 平成21年 第34回大会、第35回大会
第2回グラウンド・ゴルフ祭り大会
第12回市長杯大会
第2回古代蓮の里大会
- 平成22年 第36回大会、第37回大会
第3回グラウンド・ゴルフ祭り大会
第13回市長杯大会
第3回古代蓮の里大会

- 平成23年 第38回大会、第39回大会
第4回グラウンド・ゴルフ祭り大会
第14回市長杯大会
第4回古代蓮の里大会
- 平成24年 第40回大会、第41回大会
第5回グラウンド・ゴルフ祭り大会
第15回市長杯大会
第5回古代蓮の里大会
- 平成25年 第42回大会、第43回大会
第6回グラウンド・ゴルフ祭り大会
第16回市長杯大会
第6回古代蓮の里大会
- 平成26年 第44回大会、第45回大会
第7回グラウンド・ゴルフ祭り大会
第17回市長杯大会
第7回古代蓮の里大会
- 平成27年 第46回大会、第47回大会
第8回グラウンド・ゴルフ祭り大会
第18回市長杯大会
第8回古代蓮の里大会
- 平成28年 第48回大会、第49回大会
第9回グラウンド・ゴルフ祭り大会
第19回市長杯大会
第9回古代蓮の里大会
- 平成29年 第50回大会、第51回大会
第10回グラウンド・ゴルフ祭り大会
第20回市長杯大会
第10回古代蓮の里大会
- 平成30年 第52回大会、第53回大会
第11回グラウンド・ゴルフ祭り大会
第21回市長杯大会
第11回古代蓮の里大会
- と毎年5回の大会を行っております。

県の事業として、東部地区秋季大会及び、北彩（行田大会）を主幹事業として開催しています。埼玉県グラウンド・ゴルフ協会による秋季大会、平成30年10月4日（木）総合運動公園において3会場約1300名の参加者を得て盛大に行われました。平成30年10月14日（木）北彩大会、参加人数524名で盛大に行われました。



平成30年度現在有資格者数

M1級マスター1名

G2級ゴールド6名

S3級シルバー36名

役員名

会 長 筑脇金次

副 会 長 小河原一郎 関田 弘

常任理事 大工保 昇 吉羽誠一

長谷川 茂 梅田春男

秋元 保

事 務 局 栃木錚平

会 計 斉藤まち子

監 事 河野真津子 川島重子

幹 事 間宮林蔵

広 報 堀口昌美



行田市少林寺拳法連盟

1. はじめに

行田市体育協会の創立70周年という記念すべき年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。また、70年という歴史の中でご尽力された歴代関係者の方々、協会の発展と充実した町づくりに寄与してこられた皆様の、長年にわたるご尽力に深く感謝致します。

2. 少林寺拳法の沿革

2-1：少林寺拳法について

少林寺拳法は、開祖・宗道臣(1911～1980)が1947年(昭和22年)に創始しました。

少林寺拳法も昨年に創立70周年を迎えたばかりです。開祖が少林寺拳法を創始した当時の日本は、敗戦による混乱から秩序はすたれ、不正と暴力がまかり通り、青年も大人たちも含めた国民の大多数が、将来の希望もなく右往左往している時代でした。

開祖は、「本当の平和は、正義感と勇気と慈悲心の強い人間を一人でも多く育てる以外にない」と悟り、「勇気と自信と行動力を養わせて、祖国復興に役立つ人間を育成しよう」と決心したのです。

そこで開祖は、中国在住時に学んだ拳技を基に、自らの理論による独自の拳法をあみ出し、「少林寺拳法」と命名しました。そして、自宅を道場とし、拳技を教えると同時に、これを人づくりの手段として、「自己確立」と「自他共楽」の教えを説いたのです。



<行田市少林寺拳法大会-演武>

相手を倒し、相手に勝つことを目的とするのではなく、己に克ち、心と体を整えて、技術を楽しむ

みながら自他共に上達を図ろうとするのが少林寺拳法なのです。従って、少林寺拳法には、勝敗を争う試合というものはありません。

「半ばは自己の幸せを 半ばは他人の幸せを」これが少林寺拳法の理念を表した開祖のことばです。技術を身につけることで、イヤなものはイヤと言える自信と勇気を手に入れ、なおかつ、人と人が協力し合うことの楽しさと大切さを学ぶことに修練の目的があるのです。

2-2：行田市少林寺拳法連盟の沿革



行田市少林寺拳法連盟は、その構成母体である財団法人少林寺拳法連盟行田支部が、平成8年2月に設立したのを受けて発足しました。今年で23年目を迎え、小学生から一般拳士まで総勢60名ほどのメンバーで活動しています。

そのメンバー構成は多岐にわたり、小学生の低学年から70歳の高齢者まで幅広い年齢層となっており、さらに、兄弟一姉妹から親子、孫と祖父がともに汗を流して修行しています。

平成28年3月27日には、ガーデンパレス熊谷において少林寺拳法連盟行田支部設立20周年行事を開催することができました。近隣の各支部の拳士の方々はもちろんのこと、大勢の保護者、来賓の方々に参加いただき盛大な祝賀の会を開催することができました。

3. 活動状況について

3-1：通常活動

普段の練習は、グリーンアリーナの柔道場と剣道場をお借りして、毎週火曜日と土曜日の夜7時から9時まで練習を行っています。

少年部は、午後7時から8時10分まで行い、8時20分には終了します。その後、一般部(中学生以上)を対象に9時まで練習します。

練習は主に組手主体で行われ、二人一組となり、お互いに技術を高め合うという相対演練を行いま

す。「対等の形で、相互に礼拝し合う合掌礼」で始まり、相手と触れ合いながら、お互いに技術の向上を図ろうとするものです。

他者との交わりであり、人間関係力の育成そのものです。技をかけることにより、相手の痛みを感じ、かけられることによって自分の身体の痛みを感じる。痛みの共有であり、交わりであり、分かち合いです。

これが、少林寺拳法という自他共楽なのです。

また、少林寺拳法の技術の習得だけでなく、人として生きていく上でのスキルを身につけることも大切にしています。

脚下照顧（自分自身をかえりみる）

合掌礼（互いに人としての尊厳を認める）

作 務（日常生活に必要な作業を軽視しない）

服 装（清潔な身だしなみ）

態 度（学ぶ気持ちを形にする）

言 葉（正しい言葉、品のよい話し方を）

私達の練習においては、大人が子供を指導するというものではなく、自己の修養を第一とし、少林寺拳法を行ずる仲間として、共に修行に励んでいるのです。



また、例年10月には、行田市民総合体育大会の一環として、行田市民総合体育館（グリーンアリーナ）において行田市少林寺拳法大会を開催しています。この大会には、行田支部の所属する埼玉11ブロック所属の7支部から多くの拳士が参加協力を頂き、盛大な大会となっております。日頃の練習以外にも、夏のキャンプやクリスマス会など楽しい行事もたくさん実施しております。

＜主な行事＞ 鏡開き、宝登山（蠟梅）ハイキング、鉄剣マラソン、花見、埼玉県少林寺拳法大会、夏のキャンプ、星宮小学校環境整美活動、行田市少林寺拳法大会、納会・クリスマス会



＜行田市少林寺拳法大会＞

3-2：ボランティア活動

この10年においては、異常気象による洪水や地震による災害が各地でおきているのは周知の通りです。私達は、通常の修養で培った精神のもとに、少しでも一助になればと、東日本大震災や宇都宮の洪水災害などで、一般拳士の有志でボランティアにも参加してまいりました。

微力ながらも、現地の皆様とともに復興への協力活動は、私達にとっても貴重な経験となりました。



＜陸前高田ボランティア活動＞

4. 今後の活動

現代の社会は、悲惨な殺傷事件の発生や、ニート・フリーターといった若者たちの増加、引きこもりや不登校、また、自然災害などの課題が山積しています。

開祖が、少林寺拳法を創始した動機は、「強い人が弱い人を助けながら、お互いが幸せに暮らせる社会をつくること」でありました。人と人との争いを止め、平和と文化に貢献する人を一人でも多く育てたいということでした。

私たちは、この理念のもとに、少林寺拳法創始の原点に立ち帰り、日々の地道な活動を大切にして、身近な子どもたちや若者たちの「人づくり」に、努めていきたいと考えております。

行田市ミニテニス連盟

1. 沿革

行田市ミニテニス連盟は、平成13年4月1日に発足した団体です。平成8年に行われた体育指導委員協議会の中央研修会の中で、ニュースポーツの紹介があり、実技講習を受けこの競技を知る事となりました。行田市では埼玉県ミニテニス協会の指導員2名を講師に迎え市内14地区体協を対象に合計4回の講習会を行い実技体験をしていただきました。

その中で興味を持った地区が次々とチームを立ち上げ活動し連盟として承認されました。

2. ミニテニスの紹介

この競技は、高齢化が進む社会状況の中で「お年寄りがスポーツをすることの重要性」から、昭和61年に東京立川市で発案され、立川市が全国に宣伝し普及を図りました。ちょうどこの頃全国でニュースポーツの台頭期であり、次第に全国に広まりました。現在では年代10代～80代まで幅広い年代に愛されています。



全国大会



行田大会60歳以上



行田大会フリーの部



行田大会



女子ダブル全国大会



羽山上級審判員による講習会

3. あゆみ

設立当時は各チーム内での練習に汗を流しましたが、技術向上のため県内の各大会にエントリーするようになりました。当時の大会は少なく抽選で招待枠を埋めていました。現在では毎週のように県内、県外で大会が開催され、ほとんど希望する大会にエントリー出来るほど盛んになりました。

初対面の人でもすぐ友達になれるので各地区に沢山の友達ができるようになりました。県外への遠征も増えてきています。



山形市さくらんぼ大会



ミニテニスボール

4. 役員

会長	羽山 隆司
副会長	柳澤 雄大
理事長	千枝 幸男
事務局	千枝 弘子
会計	永井クニ子
	清水 良明
評議員	巻口 久子
理事	高橋 健二
	井上 正
	江原 房子
	原 貴美代
	河野 初江
	竹谷 静江
	杉本 君代
	根岸 香代子



日野市交流大会



ラケット

行田市ソフトバレーボール連盟

1. 沿革

行田市ソフトバレーボール連盟は、平成18年に発足し同年4月に行田市体育協会に加盟しました。

当初は12チーム119名でしたが、平成30年4月には、61チーム502名に増えました。老若男女問わず、健康、体力維持はもちろんですが、仲間作り、コミュニティ作り、生きがいなど人生の質的向上を生み出すことと、生涯スポーツを目的として、幅広く楽しんでいます。そして、県リーダー資格者を講師として、更なる向上をめざし審判講習会等で連盟の充実を図りたいと考えています。



大会開会式の様子

ソフトバレーボールとは、バドミントンコートを使用し、4人制でプレイをします。ボールは大きくて柔らかい素材でできています。

ルールについては、基本的に6人制バレーボールと同じですが、アタックラインがなし、サーブ後はフリーポジション、誰でもアタックを打つ事ができ、ブロックにオーバーネット禁止などです。

2. 10年間のあゆみ（活動報告）

毎年加盟チームによる2回の大会、一般参加によるレクリエーションとしての親善交流大会を1回、行田市総合体育館メインアリーナにて開催しています。参加チームも多いので、メインアリーナ12面コートすべてを使用しています。

10年間で変更したことは、チーム編成です。当初は、

混合一般

混合シニア（170歳以上）

女子一般

女子シニア（170歳以上）

4編成でしたが、参加チームが増え年齢層が幅広くなったため、第23回大会から、

トリムA 混合一般

トリムB 混合シニア（160歳以上）

トリムC 混合シニア（200歳以上）

トリムD 女子一般

トリムE 女子シニア（170歳以上）に

変更しました。



試合の様子



それにともない、試合数が増えたので、スムーズな進行とルールを熟知してもらうために、年2回大会前に、市内小学校体育館やサブアリーナで審判講習会を実施しています。当初は、講師に県リーダー資格者を招いていましたが、現在は、連盟の役員で有資格者が指導をしています。



審判講習会の様子

3. 連盟加盟チーム (平成30年4月)

ファウンティン	さくらんぼ
撫子恋	S.C.Araki
ジュピター	星河ソフトバレーボール
FUDOU	SEPIA
RONA (RANGERS)	PRETZ
Happy	びっきーず
こだぬき	OLIVE
Fine!	SUKA
みらくる	RETOA
パワーズ	MINAMI
マミ〜ず	ニラモ
MIRCS	Chicken Nice
sea Lion	ラビット
Smile	L&B
行田ふれんず	ルージュ
P・パンダ	クローバー
Color	Drops
ベアーズ	K・REDS
Ciao!	オレンジクラブ
Quartet t☆	MSC
Peace	坂戸ひまわりクラブ
Rough	KSVクラブ
チームMJ	Mickey
ミナミSVC	VERY

T-ACT	サマンサユース
ひまわりクラブ	爽風会
BLAZE	Bambina
VICTINI	VABO
虹	ドラMIX
MOOM	ベリース
スクラッチ	

61チーム502名

連盟役員

会長	成田 幸夫
副会長	桑山 直樹・清水 俊明
会計	岡田 初江
審判部	栗藤 勤・村社 卓・庄司 文子
	長島 正子・茂手木 伸幸
	飯塚 和嗣・佐々木 雄一
	柳川 早月・青木 久美子
	神山 亜紀
事務局	大野 千秋・小久保 朋子
監事	中野 寿恵・海老島 明美



4. 今後の課題や展望

大会参加チーム数が増えたのは大変喜ばしいことですが、コートの設定において余裕がないために、今後メインアリーナとサブアリーナを使用する予定です。大会参加者が、楽しく、和気あいあいと競技できるように役員一同努力していきたいと思えます。

行田市ターゲット・バード ゴルフ連盟

1. 沿革

平成17年9月 熊谷市T B G協会行田支部として発足。平成19年4月 行田市T B G協会として独立して今年で12年目を迎えます。会員数は平成30年12月現在男女83人、60～70歳台が中心で最高年齢者は87歳です。

競技場所は行田市総合公園西の原と多目的広場を利用しています。

発足当時の西の原は荒地の野原でしたが、行田市から使用許可を得て、当時の三瓶会長をはじめとして役員が汗を流して整備して9ホールコースに作り上げられました。周囲は木々が生茂り緑豊かで、春には桜が咲き素晴らしいコースになりました。

多目的広場は平成21年に残土置き場を行田市にお願いして整備して頂きフラットな芝生の広場になり、他の競技と併用して利用しています。

ターゲット・バードゴルフとは「ターゲット（標的）」「バード（鳥）」「ゴルフ」の三語を合わせた名称の略称でT B Gと言い文部科学省で認定された生涯スポーツとして幅広く愛好されています。この競技の発祥地は埼玉県川口市です。

バトミントの羽根をゴルフボールに付けたような形の合成樹脂のボールを専用のゴルフクラブ1本で遠くにある籠（パラソルを逆にしたホール）に入れて、その打球回数を競う、ゴルフをミニ化したスポーツです。ボールの飛ぶ距離が短く狭い場所でも出来るので子供から大人まで手軽に楽しめます。



T B Gの練習風景

2. 活動内容

年間を通して練習会と競技大会を開催してレベルアップと親睦を深めています。また、他の地域のT B G大会に参加して交流を図っています。

1) 練習会

毎週月曜日～土曜日の午前中（火曜日と金曜日は15時まで）西の原コースで和気あいあいにプレーを楽しんでいます。

2) 競技大会

毎月1回（月末の水曜日）大会を西の原と多目的広場を使用した競技大会を開催して日頃の成果を競い、合わせて親睦を図っています。

月例記録会を含む一年間の開催大会は市長杯を初めとして、次の大会を開催しています。

- 4月：月例記録会
- 5月：春の会長杯曜日別団体戦
- 6月：春の会長杯個人戦
- 7月：定例記録会
- 8月：定例記録会
- 9月：忍城杯個人戦
- 10月：行田市市長杯
- 11月：秋の会長杯個人戦
- 12月秋の会長杯曜日別団体戦
- 3月：期末会長杯個人戦



平成30年10月、行田市長を迎えて市長杯記念写真

3) 外部大会に参加

上部団体の埼玉県T B G協会主催の大会等各種大会に参加をして競技レベルの向上と交流を図っています。

平成30年度の外部大会の参加内容

- 3月：平成30年度北部ブロック大会（熊谷市）

- 4月：第27回関東甲信越ブロック大会予選会
(熊谷市)
- 5月：第5回全国大会埼玉県予選会(川口市)
- 5月：第30回県民総体スポーツフェスティバル
(熊谷ドーム)
- 6月：第1回埼玉県T B G交流会
- 11月：県民総合体育県T B G大会(岩槻市)
- 11月：埼玉県リクレーション大会(鶴ヶ島市)
- 11月：団体記念スポーツフェスティバル(熊谷ドーム)
- 2月：第6回新春熊谷ドーム交流大会(熊谷ドーム)

4) 行田市体育協会の事業に参画

行田市体育協会加盟団体として、協会の実施する次の事業に積極的に参画しています。

- (1)鉄剣マラソン大会の競技役員
- (2)スポーツ指導者研修会
- (3)みんなでラジオ&ながちか体操
- (4)市民体育祭
- (5)浮き城のまち行田駅伝大会の競技役員

3. 役員紹介(平成30年度)

名誉会長	三瓶三好
会 長	渡辺茂男
副 会 長	岩崎利夫
内部部長	川村久雄
外部部長	岩崎利夫
会 計 長	山田正啓
事務局長	渡辺 暁
監査担当	佐藤道夫
体協理事	福田武久

4. 今後の活動方針

これからの高齢化社会を健康で生き生きとした生活を楽しく過ごすために、ターゲット・バードゴルフを生涯スポーツとする同世代の仲間を増やしていきたいと思えます。そのために、市民への普及と協会内の競技大会の充実を図ると共に県、及び北埼玉地区等の競技大会に積極的に参加して交流を図っていききたいと思います。

5. 競技場の紹介

1) 西の原

総合公園の野球場の西方に当たり、周りは緑豊かで春は桜が咲き、秋は紅葉が見られる素晴らしいコースです。



西の原の練習風景

2) 多目的広場

西の原の南側に新たに整備された広場で一面が芝生で少年サッカーや子供の遊び場、グランドゴルフ等多目的に使用されています。

T B Gは月例の競技大会(平日)に使用しています。



多目的広場の競技大会風景

行田市スポーツウエルネス 吹矢協会

1. 沿革

「行田市スポーツ吹矢協会」は、平成31年度から「行田市スポーツウエルネス吹矢協会」と名称を改めることになった。行田市体協に加盟してまだ8年の若い団体である。もっとも「日本スポーツ吹矢協会（これも名称が変更になる）」でさえ創立20年しか経っていない団体なので当然のことだ。8年前の発足の経緯を関係者に聞いた。

平成23年(2011年)3月に、行田市市内にて活動している地域支部・クラブの代表4名、他2名が集まり、スポーツ吹矢行田市協会の設立と合わせて、行田市体育協会への参加申請を討議・検討し全員一致で設立及び市体協へ参加申請することを決定。これに基づき同年4月行田市体育協会に申請し、同年5月の市体育協会の総会において体育協会の傘下団体として認定を受けて、正式に「行田市スポーツ吹矢協会」として発足した。初代会長には窪田俊司氏が就任しその任を遂行した。その後2年ごとに会長が交代し現在に至っている。以上が加盟の経緯である。



平成時代の体協旗

※残念ながらこの体協旗は平成30年度いっぱいでお蔵入りとなる。(見納めだ！)
新しい時代に新しい協会の旗ができてくるのが楽しみである。

歴代の会長

平成23～24年度 窪田俊司 (太井支部)
 ✕ 25～26年度 黒田修弘 (彩央行田支部)

平成27～28年度 江森 暉 (行田長野支部)
 ✕ 29～30年度 内藤賢一 (行田やすらぎ)

2. 活動報告

【総会】

毎年4月中旬頃、行田市スポーツ吹矢協会として支部長だけではあるが総会を開いている。

- ・当該年度の事業並びに決算の報告
- ・次年度の事業計画(案)並びに予算(案)
- ・その他

13支部の支部長、及び日本スポーツ吹矢協会(旧称)常務理事徳世元弘氏などにより進行される。特に事業計画案は反省と現状を踏まえて慎重に検討される。また、その他では日本全般でのスポーツ吹矢の実情や動静、或いはルール改定の周知・伝達などが話し合われる。各支部の活動報告も興味深いものがある。

【各支部の取り組み】

現在「行田市スポーツウエルネス吹矢協会」に加入している団体は13団体(支部)である。会員は男女計231名(H30年4月現在延べ人数)である。このうち日本スポーツウエルネス吹矢協会に所属している支部は8団体にとどまる。

各支部はそれぞれに練習拠点を構え、週に1～2回程度(1～2時間)の練習をしている。以下各支部名と練習会場の大きさを紹介しておく。

支部名	支部長	練習場所
行田太井	梁瀬 修一	泉小
彩央行田	黒田 修弘	みらい他
行田長野	江森 暉	長野公民館
行田やすらぎ	田中 章雄	やすらぎの里
春一番行田	大野 弘茂	埼玉公民館
行田荒木	川久保貞治	荒木公民館
まがたまの会	高橋 妙子	コミセン
さざんかミナミ	角田 博	南河原公民館
スターリバー	吉田 浩司	星河公民館
行田佐間	梅田伸一郎	佐間公民館
桜が丘吹矢クラブ	大谷 豊	桜が丘公民館
下須戸もみじの会	松本幸太郎	下須戸集会所
行田持田スポーツ吹矢クラブ	高原 昇三	持田公民館

※時間など一部省略

各支部の活動

- ①. 実技練習（これが中心である）
- ②. レクリエーション（実技を基としたゲーム等）
- ③. 新年会や忘年会 昼食会など
- ④. 行事や催し物への参加

など仲間同士和気藹々を楽しんでいる。勿論、技能の習得・勉強が主となるが、最大の目的は自らの健康の維持・管理であることは共通の認識である。休憩時間は色々な情報の交換に役立っている。

3. 競技会

年に一度、[行田市スポーツ吹矢大会]が開かれている。（10月中旬頃）平成30年度で第8回を数えた。年ごとに参加者が増えて、第8回は100名を超えるまでになった。又、年2回行われている埼玉県大会に参加する者も多い。

※行田市大会、埼玉県大会共に距離別・男女別に表彰。また、最後には抽選会もあり、緊張から解き放たれた楽しいひとときもある。



練習風景（泉小体育館）

4. その他の活動

- ◇ 市内の公民館で毎年行われる秋の文化祭での体験会
- ◇ 泉小やコミュニティーセンターでの体験会
- ◇ 児童を対象にした体験会



荒木小フェスティバル



北小わくわく教室

今後の取り組みについて

「スポーツ吹矢」に限ったことではないかもしれないが、平均年齢も高くなり年々高齢化が進んできている。体力的に… とか体調が思わしくないで… とか練習の参加率も下がる傾向が表れてきたように思える。したがって今後各支部や体協として存続していくためには、何らかの手立てが必要となるだろう。例えば若い方々への働きかけ・勧誘。様々な機会を活用した体験会などを通してすそ野を広げていく努力。楽しく魅力のある支部の運営など工夫する必要があるかも知れない。今後どのくらい支部や会員が増えていくか期待もするが、心配になる気持ちがないわけでもない。いずれにせよ、今現在活動している会員が今後も変わりなく楽しめることが何よりの目標かもしれない。



みずしろフェスタ2018

役員等について

平成30年度の役員

1. 会長 内藤 賢一
2. 副会長 大野 弘茂
3. 会計 川久保貞治
4. 顧問 江森 暉
(以上は2年交代)
5. 各支部長は前述の通り
6. その他

特別役員

- ・日本スポーツ吹矢協会
常務理事 徳世 元弘
- ・埼玉県スポーツ吹矢協会理事
佐藤 七郎

(担当 内藤)

行田市フロアカーリング連盟

1. 沿革

10年ほど前から、北埼玉地区スポーツ推進委員連絡協議会主催の北埼玉地区フロアカーリング交流大会（平成28年度を最後としている）が毎年2月ごろ開催され、その後、各地区体育協会でも軽スポーツとしてフロアカーリングを取り入れました。

その影響を受け各地区でフロアカーリング部が立ち上がり、最初に立ち上げたのは、平成21年に須加地区でフロアカーリング部が発足し、その後、太井地区、長野地区、佐間地区他でフロアカーリング部が順次立ち上がりました。

北埼玉地区フロアカーリング交流大会を参考に年2回ほど行田市親善交流大会を開催いたしました。

平成27年3月8日開催の第7回の親善交流大会を最後にし、行田市体育協会加入のための組織作りに試行錯誤した後に、平成27年4月1日に行田市フロアカーリング連盟を立ち上げ、同年5月に行田市体育協会の承認を頂きました。

連盟発足後、毎年8月、12月、3月と年3回、大会を開催し、平成30年8月19日には連盟発足後、第10回目の大会を開催いたしました。

なお、この第10回大会は市外からのチームが初めて参加（3チーム）の大会となりました。



第10回行田市フロアカーリング大会開会式

また、発足後、4年目の連盟ではありますが、平成27年度の埼聴協県北ブロック・サ連県北ブロック合同フロアカーリング交流会への支援を始めとし、近年では平成30年度に市民けんこう大学

院の軽スポーツ入門講座にフロアカーリングを取り入れていただいた際に実技指導及び試合時の審判等の支援を行うなど、フロアカーリングの普及活動にも力を入れています。

2. あゆみ

平成27年4月1日、当連盟設立

8月 審判講習会（3回実施）

8月 第1回行田市70アカーリング大会
参加18チーム（4人制）

優勝 太井70アカーリングクラブA

12月 第2回行田市70アカーリング大会
参加24チーム（4人制）

優勝 太井70アカーリングクラブA

平成28年3月 第3回行田市70アカーリング大会
参加21チーム（4人制）

優勝 須加ととA

8月 審判講習会（3回実施）

9月 第4回行田市70アカーリング大会
参加22チーム（4人制）

優勝 太井カーリングA

12月 第5回行田市70アカーリング大会
参加24チーム（4人制）

優勝 FCC長野D

平成29年3月 第6回行田市70アカーリング大会
参加24チーム（4人制）

優勝 太井カーリングB

7月8月 審判講習会（2回実施）

8月 第7回行田市70アカーリング大会
参加20チーム（4人制）

優勝 行田太井クラブA

12月 第8回行田市70アカーリング大会
参加22チーム（4人制）

優勝 ソフィーズ

平成30年3月 第9回行田市70アカーリング大会
参加22チーム（4人制）

優勝 スカットB

7月8月 審判講習会（2回実施）

8月 第10回行田市70アカーリング大会
参加35チーム（3人制）

優勝 FCC長野A

12月 第11回行田市70アカーリング大会
参加26チーム（4人制）

優勝 行田太井クラブD



第11回行田市フロアカーリング大会

サニーズ（加須市） 長島 弘
 ダイヤモンド（加須市） 長島 弘
 ビクトリー（加須市） 長島 弘



審判講習会

3. 上部組織大会参加成績

- 平成27年2月 北埼玉地区フロアカーリング大会
 参加32チーム（3人制）
 優勝 F C C長野A
- 平成30年6月 全国70カーリング大会in羽生
 参加108チーム（3人制）
 第3位 スカットA

4. 普及活動

- 平成28年2月 埼聴協県北ブロック、サ連県北ブロック
 合同フロアカーリング交流会への
 支援
- 平成28年8月 東小・桜が丘小・北小及び長野中
 の先生方のフロアカーリング
 講習会への実技指導
- 平成29年10月 市民けんこう大学院の軽スポーツ
 入門講座のフロアカーリングに実
 技指導及び審判等の支援
- 平成30年11月 市民けんこう大学院の軽スポーツ
 入門講座のフロアカーリングに実
 技指導及び審判等の支援

5. 登録チーム（平成30年度）

所属団体名	代表者
須加70カーリングクラブ	永沼二三夫
太井70カーリングクラブ	佐藤 範夫
F C C長野	伊熊 紀子
ブロッサム	荒井 洋一
忍カッターズ	本城 純
持田70カーリングクラブ	横田 香
埼玉クラブ	鈴木 英也
S.C荒木カーリング部	茂手木伸幸
ソフィーズ	福島 保子

6. 役員名簿（平成30年度）

役職名	氏名	役職名	氏名
会 長	園部秀夫	理 事	佐藤範夫
副 会 長	須田栄一	〃	本城 純
事務局 長	野口琢磨	〃	茂手木伸幸
会 計	小林久江	〃	鈴木英也
審 判 長	須加正司	〃	横田 香
副審判長	佐藤範夫	〃	福島保子
理 事	永沼二三夫	会計監査	田口恵子
〃	伊熊紀子	〃	高野清子
〃	新井伸江	顧 問	長島 宏
〃	荒井洋一		



7. 今後の活動方針及び課題

このフロアカーリングは老若男女を問わず、一定の広さを必要としますが室内ででき、各自の体力に合わせてできることから、これからも大勢の方の参加を頂きながら、生涯スポーツとして長きにわたって健康的な生活が送れるよう、また楽しく続けられるよう努力していききたいと思います。

今後の課題として、チーム数の増加や高齢者の参加に伴い、大会時の運営役員、特に審判・コート責任者等の不足が考えられます。

行田市学童スポーツ団体連絡協議会 行田市スポーツ少年団

○行田市学童スポーツ団体連絡協議会

1. 沿革

行田市学童スポーツ団体連絡協議会は昭和59年5月に結成され、加盟団体に所属する児童の心身の健全な育成に努めている。

2. 主な行事

事業としては、行田市スポーツ少年団と協力し「行田市綱引き大会」、「行田市なわとび大会」の運営を行っている。また、各種目別団体において大会等の事業を行い、青少年の体力・技術の向上及び育成に努めている。

平成30年度の主な活動

(主催事業)

6月 第28回行田市綱引き大会

1月 第30回行田市なわとび大会

(会議等)

6月 総会

綱引き大会役員打ち合わせ会

12月 なわとび大会役員打ち合わせ会

3. 平成30年度の役員

会長 水内 昌幸

副会長 根岸美喜治

監査 齊藤さゆり 小松 裕幸

理事 羽鳥 光弘 高澤 宏二

川谷内 隆 田口 和宏

羽鳥 妙子 本山 寿一

福田 智之 福島 正和

金山 智玲 枝本 華奈

○行田市スポーツ少年団

1. 沿革

行田市スポーツ少年団は、日本スポーツ少年団の目的に従い、団の普及と育成会及び活動の活性化をはかり、青少年にスポーツを振興し、もって心身の健全な育成に資する事を目的に活動している。

2. 主な行事

事業としては、行田市学童スポーツ団体連絡協議会と協力し「行田市綱引き大会」、「行田市なわとび大会」の運営を行っている。

各種目別団体においても大会等の事業を行い、青少年の体力・技術の向上及び育成に努めている。

また、各単位団に所属している団員や指導者も種目の枠を超え、国や県スポーツ少年団主催の研修会や講習会等に参加している。

平成30年度の主な活動

(主催事業)

6月 第28回行田市綱引き大会

1月 第30回行田市なわとび大会

(会議等)

6月 総会

綱引き大会役員打ち合わせ会

12月 なわとび大会役員打ち合わせ会

3. 平成30年度の役員

本部長 田口 英樹

副本部長 西田 徳弘

監事 深町 艶子 額賀 洋一

理事 須永 和男 伊藤 健二

佐藤 文男 木元 秀典

早川 千晴 小池 博士

西村 和宏 石井 良造

杉山 秀文 市川 和子

伊藤 貴朗 袖山 勝幸

安藤 和人 菅原 文枝

柿谷 延之 田口さゆり



○行田市綱引き大会

行田市学童スポーツ団体連絡協議会と行田市スポーツ少年団の両団体主催の綱引き大会は「児童の基礎体力の向上を目指すとともに、チーム内の協力や助け合いを通して思いやりの心を育み、親睦及び連帯感を深める」ことを目的とし、平成3年度から28回行っている。一時は参加人数の減少もあったが、各加盟団体や市内小学校の協力もあり、ここ数年は増加傾向がある。

第28回行田市綱引き大会結果（平成30年度）

【低学年の部】

- 1位：かつぞ〜！！12人だ 南河原小学校
- 2位：いずみレジェンド 泉小学校
- 3位：泉っ子ファイヤーズ 泉小学校

【中学年の部】

- 1位：東たびっ子パワー 東小学校
- 2位：西の子ファイターズ 西小学校
- 3位：南河原ファイヤーズ 南河原小学校

【高学年の部】

- 1位：ザ・ルーちゃんズ 南河原小学校
- 2位：ポンディング西の子 西小学校
- 3位：西の子バスターズ 西小学校

○行田市なわとび大会

行田市学童スポーツ団体連絡協議会と行田市スポーツ少年団の両団体主催のなわとび大会は「児童の体力づくりを目指すとともに、自己の記録に挑戦しようとする精神を育成する」ことを目的とし、平成元年度から30回行っている。一時は参加人数の減少もあったが、各加盟団体や市内小学校の協力もあり、ここ数年は増加傾向がある。

30回大会までの歴代記録

時間とび（男子）

学年	名前	記録	所属	年度
1年	新井 翔琉	19分26秒	西	29
2年	渡辺 光治	24分56秒	西	1
3年	田島竜太郎	41分10秒	星宮	9
4年	村上 勇介	61分50秒	太田西	8
5年	児玉 峰	50分18秒	太田西	11

時間とび（女子）

学年	名前	記録	所属	年度
1年	中林 里奈	14分45秒	中央	7
2年	伊東 由子	36分30秒	西	4
3年	関澤 綾乃	41分57秒	太田西	30
4年	小谷 実季	42分57秒	西	10
5年	河村 彩	75分51秒	桜ヶ丘	5
6年	深井 仁愛	70分08秒	東	28

○加盟団体数

総数				内 訳																							
年 度	団体数	指導者数	団員数	少年野球		ミニバス		バスケット		体操		武道		水泳		サッカー		バドミントン		バレー		空手		ソフトボール		野外活動	
				団体数	団員数	団体数	団員数	団体数	団員数	団体数	団員数	団体数	団員数	団体数	団員数	団体数	団員数	団体数	団員数	団体数	団員数	団体数	団員数	団体数	団員数	団体数	団員数
21	59	652	2039	28	429	10	206	0	0	1	280	0	0	4	536	9	420	1	37	1	21	3	100	1	5	1	5
22	58	694	1976	27	370	10	201	0	0	1	285	0	0	4	502	9	444	1	36	1	20	3	95	1	18	1	5
23	57	645	1821	26	361	10	200	0	0	1	280	0	0	4	424	9	407	1	30	1	12	3	82	1	20	1	5
24	56	455	1730	24	353	10	167	0	0	1	275	1	9	4	403	9	347	1	28	1	18	3	95	1	30	1	5
25	52	620	1278	22	293	10	133	0	0	0	0	1	9	4	354	8	333	1	20	1	12	3	98	1	21	1	5
26	46	426	1234	18	316	8	120	0	0	0	0	1	6	4	392	8	249	1	23	1	4	3	101	1	18	1	5
27	45	358	1268	18	255	9	150	0	0	0	0	1	8	4	411	7	291	1	25	1	10	3	98	1	20	0	0
28	45	356	1232	18	249	9	155	0	0	0	0	1	11	4	426	7	232	1	36	1	12	3	89	1	22	0	0
29	42	340	1207	16	237	9	165	1	8	0	0	1	10	4	423	5	209	1	31	1	16	3	90	1	18	0	0
30	41	293	1184	16	222	9	179	1	8	0	0	1	10	4	423	4	188	1	31	1	8	3	101	1	14	0	0

○行田市学童スポーツ団体連絡協議会加盟団体

- 野球（15チーム）
星宮城西少年野球
星河少年野球
佐間下忍少年野球
水城少年野球
若小玉スピリッツ少年野球
泉小少年野球
西小少年野球
東フェニックス少年野球
富士見少年野球
須加少年野球
埼玉少年野球
星宮城西少年野球ジュニア
水城少年野球ジュニア
泉小少年野球ジュニア
西小少年野球ジュニア

- ミニバス（9チーム）
行田長野ミニバス
行田ラビッツミニバス
行田みなみミニバス
行田ミニバスクラブサンズ
桜ヶ丘ミニバス
さきたまミニバス
さきたまミニバス男子
ルーキーズ
泉ドルフィンズ

- 武道（1チーム）
マーシャルアーツライフ

- 水泳（4チーム）
カモメクラブ
飛魚クラブ
イルカクラブ
河童クラブ



○行田市スポーツ少年団加盟団体

- サッカー（4チーム）
行田SC
行田泉サッカー
中央キャッスルキッズ
行田サウスフェニックス
- ミニバス（7チーム）
長野ミニバス
行田ラビッツミニバス
行田みなみミニバス
行田ミニバスクラブサンズ
桜ヶ丘ミニバス
さきたまミニバス
さきたまミニバス男子

※学童スポーツ団体と重複あり

- バスケットボール（1チーム）
アローズ

- 空手（3チーム）
誠道館空手道
日本空手協会行田支部
柏龍会秀明塾

- バドミントン（1チーム）
行田バドミントン

- バレーボール（1チーム）
行田チェリーズ

- ソフトボール（1チーム）
行田少女ソフトボール

- 野球（1チーム）
行田ドリームス



行田市居合道連盟

1. 沿革

行田市居合道連盟は、昭和58年の中央公民館での居合道講座を契機に発足し、埼玉県剣道連盟居合道部の行田支部として活動しています。

居合道の始祖は、戦国時代末期の出羽の国住人、林崎甚助重信といわれております。その後、江戸時代には多くの流派が存在していましたが、明治維新、昭和の敗戦などで武道が打撃を受けると、居合道も同じ運命をたどりました。

しかしながら、関係者の努力により全日本剣道連盟が結成されると各派の居合道もその傘下に加わりました。

そのため、全国的に統一された型が必要とされ昭和44年に全日本剣道連盟居合（全剣連居合）が制定されました。

なお、古流の流派は、現在は20流派程度といわれています。

2. 活動報告

グリーンアリーナにおいて、毎週木曜日の午後7時から、また隔週の土曜日の午後6時から定例の稽古を行っています。

稽古内容は、全剣連居合と古流（夢想神伝流）の型稽古です。全剣連居合は12本からなり、古流の夢想神伝流は初伝、中伝、奥伝からなっています。

また、埼玉県剣道連盟居合道部の諸行事に参加しています。行事としては、定期講習会が年4回、昇段審査会が年2回、県大会などがあります。

さらに、県外で開催される講習会や大会などにも参加することがあります。

居合道は型の一人稽古であるため、稽古する人の体力に合った練習が可能であり、年齢や性別は関係しません。

3. 今後の課題

会員数を増加させることが今後の課題と考えられます。一時期よりは増加しておりますが、もう少し会員が増えればと思います。

最近、刀剣ブームともいわれているようで、特に若い人たちの間で刀剣に興味を持つ人が増加しているようです。そのような方たちにアピールできる活動も必要だと考えられます。

そのために、居合道はどんなものか、また稽古内容などをアピールした広報活動なども必要であると考えられます。



行田市スポーツ推進委員協議会 (行田市体育指導委員協議会)

1. 沿革

昭和32年に体育指導委員制度が発足し、スポーツ振興法第19条において、市区町村教育委員会任命の「体育指導委員」が法的に位置づけられました。

平成23年8月24日から、新たに施行されたスポーツ基本法により、従来の「体育指導委員」から「スポーツ推進委員」に名称が変わり、それに伴い本協議会でも平成23年10月に「行田市体育指導委員協議会」から「行田市スポーツ推進委員協議会」に名称を変えました。

行田市スポーツ推進委員協議会は、各地区体育協会から推薦された32名で活動しています（平成31年2月現在）。スポーツ推進のための事業実施に係る連絡調整、市民のニーズに応じたスポーツの指導、スポーツ活動促進のための組織づくり、地域で展開されるスポーツ行事の企画や協力など、生涯スポーツの推進役を担っています。

また、市民のニーズに合わせ、活動スローガンである『市民の健康・体力づくりの推進と地域スポーツ活動の推進』に基づき、スポーツ推進委員としての自覚と認識を持って、諸事業を積極的に推進しています。



ドッジビー大会



ヘルスバレーの研修

2. 主管事業及び協力事業

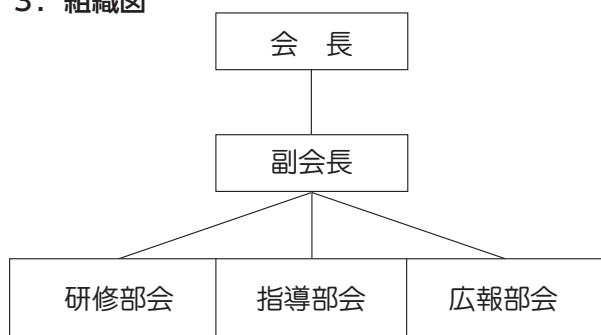
《平成30年度》

- 4月 鉄剣マラソン大会
- 6月 綱引き大会
☆県外ウオーキング
- 7月 みんなでラジオ&ながちか体操会
- 8月 小学校奉仕子活動前ラジオ体操普及事業
☆自然体験活動
- 10月 市民体育祭
- 11月 東日本実業団駅伝競走大会
- 12月 “浮き城のまち行田” 駅伝競走大会
- 1月 なわとび大会
☆新春ウオーキング
- 2月 埼玉県駅伝競走大会
☆宿泊研修
☆ドッジビー大会



県外ウオーキング
長野県上田市

3. 組織図



○研修部会

ニュースポーツを地域展開するための諸活動や各委員のスキルアップを目的とした研修会を行う。

○指導部会

市民向けイベント（県外ウオーキング、ドッジビー大会）の企画運営を行う。

○広報部会

広報誌「スポーツ推進だより」を年間2回発行する。各イベントの撮影を行い、協議会の活動を内外に紹介する。

4. 会長・副会長

平成20・21年度

会長 川嶋二郎

副会長 園部秀夫
伊藤佳代子
玉木民雄

平成22・23年度

会長 川嶋二郎

副会長 伊藤佳代子
玉木民雄
飯塚圭一

平成24・25年度

会長 川嶋二郎

副会長 伊藤佳代子
玉木民雄
飯塚圭一

平成26・27年度

会長 玉木民雄

副会長 伊藤佳代子
山口守男

平成28・29年度

会長 玉木民雄

副会長 伊藤佳代子
堀田勇次

平成30・31年度

会長 玉木民雄

副会長 伊藤佳代子
堀田勇次

5. 平成30年度の委員

選出区分	氏 名		
忍	池谷 智久	吉田 明正	小林 正樹
行 田	堀 賢司	森田 聖司	
佐 間	篠崎貴枝子	川端 美夏	中澤 俊裕
持 田	堀田 勇次	村瀬 博宣	新井 徹
星 河	松本 健治	浦邊 英樹	大澤 竹生
長 野	伊藤佳代子	金子 裕	堀口 和彦
荒 木	小松 裕幸	茂手木伸幸	
須 加	須永 昌幸	青木 文男	
北河原	松田 芳明	青木 仁	
埼 玉	谷部 高史		
星 宮	福島 正和		
太 井	高橋 憲明	杉山 昭二	菅野 郁子
下 忍	柴田 隆明		
太 田	玉木 民雄	柿沼 大智	
南河原	吉沢 義和		



自然体験活動 【茨城県大洗町】

行田市体育協会規約

行田市体育協会規約（昭和24年5月3日制定）の全部を改正する。

第1章 名称及び事務所

（名称）

第1条 本会は、行田市体育協会と称する。

（事務所）

第2条 本会の事務所は、行田市教育委員会スポーツ振興課内に置く。

第2章 目的及び事業

（目的）

第3条 本会は、行田市における各種体育スポーツ団体、レクリエーション団体及び地区体育協会を統轄すると共に、これら団体の健全な育成に努め、合わせて本市のスポーツの振興と市民の体力向上を図り、もって健康で明るいまちづくりに寄与することを目的とする。

（事業）

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 市民の健康増進と体力づくりの推進
- (2) 加盟団体の連絡指導育成
- (3) 各種大会、講習会及び教室の実施並びに調整
- (4) 指導者の養成及び資質の向上
- (5) 生涯スポーツの啓発及び育成
- (6) 学童スポーツの育成
- (7) 軽スポーツ及びレクリエーションの普及振興
- (8) 国、県及び北埼玉地区等競技会への選手の派遣
- (9) 体育スポーツ、レクリエーション功労者、優秀選手及び団体の表彰
- (10) その他本会の目的達成に必要な事業

第3章 組織

（加盟団体）

第5条 本会は、次に掲げる市内の各種団体をもって組織する。

- (1) 地区体育協会
- (2) 体育スポーツ団体
- (3) レクリエーション団体
- (4) 学童スポーツ団体連絡協議会
- (5) 小中高等学校を母体とする学校体育団体

（負担金）

第6条 加盟団体は、別に定める負担金を毎年度納入しなければならない。納入した負担金は、理由の如何を問わず返戻しない。

（加盟及び脱会）

第7条 本会に加盟を希望する団体は、その名称、規約、事業計画及び収支予算書を添えて会長に申請し、理事会の承認を得て別に定める負担金を納入しなければならない。

2 本会を脱会するときは、理由書をつけて脱会届けを会長に提出し理事会の承認を得なければならない。

(資格の喪失)

第8条 加盟団体は、次の各号のいずれかに該当するときは本会員の資格を喪失する。

- (1) 脱会したとき
- (2) 団体が解散したとき
- (3) 除名されたとき

(除名)

第9条 加盟団体が次の各号のいずれかに該当するときは、理事会の承認を得て、会長がこれを除名することができる。

この場合会長は、評議員会に報告しなければならない。

- (1) 負担金を納入しないとき
- (2) 本会の名誉を傷つけ又は本会の目的に反する行為があったとき

第4章 役員

(役員)

第10条 本会に次の役員を置く。

会長	1名
副会長	若干名
理事長	1名
副理事長	若干名
理事	加盟団体から選出された者各1名及び会長が委嘱した者若干名
評議員	加盟団体から選出された者各3名及び会長が委嘱した者若干名
監事	2名

(役員を選出)

第11条 会長は理事会で推薦し、評議員会の承認を得て決定する。

- 2 副会長は会長の推薦により、評議員会の承認を得て決定する。
- 3 会長、副会長は理事及び評議員の資格を有する。

第12条 理事長、副理事長は理事会において理事の互選により選出する。

第13条 理事は、各加盟団体の評議員の中から1名選出されたものとする。

- 2 次条第2項の規定により学識経験者及びスポーツ推進委員が評議員に委嘱されたときは、合せて理事に委嘱されたものとみなす。

第14条 加盟団体の評議員選出区分は、次のとおりとする。

- (1) 地区体育協会 各3名
- (2) 体育スポーツ関係団体 各3名
- (3) レクリエーション関係団体 各3名
- (4) 学童スポーツ団体連絡協議会 3名
- (5) 学校体育関係団体 各3名

- 2 会長は、学識経験者及びスポーツ推進委員を評議員に委嘱することができる。

第15条 監事は、評議員の中から評議員会の承認を得て会長が委嘱する。ただし、監事に委嘱されたものは、理事を兼ねることができない。

(役員の仕事)

第16条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し会務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し会長事故あるときは、会長があらかじめ指名した順序によりその会務を代理する。
- (3) 理事長は、会務を執行する。
- (4) 副理事長は、理事長を補佐し理事長事故あるときは、会長があらかじめ指名した順序によりその会務を代理する。
- (5) 理事は、理事会を組織し、会務を審議し執行する。
- (6) 評議員は、評議員会において付議事項を審議決定する。
- (7) 監事は、会計を監査する。

(役員の任期)

第17条 役員の任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

2 補欠による役員の任期は前任者の残任期間とする。

3 加盟団体から選出された役員がその所属団体から離れたときは、自動的に本会役員の資格を失う。

4 役員は任期が満了しても、後任者が就任するまでなおその職務を行う。

(役員の解任)

第18条 役員が次の各号のいずれかに該当するときは、理事会又は評議員会の承認を得て会長はこれを解任することができる。

- (1) 心身の障害のため会務の執行に堪えられないと認められたとき
- (2) その他役員としてふさわしくない行為があると認められたとき

第5章 会 議

(会議)

第19条 本会の会議は、理事会及び評議員会とする。

(理事会)

第20条 理事会は、会長、副会長及び理事で組織する。

2 理事会は会長が招集し、その議長となる。

3 理事会は、次に掲げる事項を審議承認する。

- (1) 事業報告及び決算に関すること
- (2) 事業計画及び予算に関すること
- (3) 本会規約の改正に関すること
- (4) 本会規約第7条、第9条、第12条及び第18条で規定する事項
- (5) 本会主催行事に関する事項
- (6) その他重要と認める事項

(評議員会)

第21条 評議員会は、会長、副会長、理事及び評議員で組織する。

2 評議員会は会長が招集し、その議長となる。

3 評議員会は総会をかね、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 本会規約第11条第1項、第2項、第15条及び第18条で規定する事項。
- (2) 前条第3項第1号から第3号で規定する事項。

(会議の成立)

第22条 会議は、出席者の過半数で決定する。可否同数の場合は議長が決する。

第6章 専門委員会

(専門委員会)

第23条 本会に、専門の事項を審議するため専門委員会を設けることができる。

2 専門委員会の組織運営については、必要に応じて別に定める。

第7章 会 計

(会計年度)

第24条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(経 費)

第25条 本会の経費は、次に掲げるもので支弁する。

- (1) 加盟団体の負担金
- (2) 市補助金
- (3) 県体育協会補助金
- (4) 寄付金
- (5) その他収入

第8章 事務局

(事務局)

第26条 本会に事務局を設け、次の職員を置く。

- (1) 事務局長 1 名
- (2) 事務職員 若干名

2 職員は、会長が委嘱する。

3 職員は、会長の命を受け本会の事務を処理する。

第9章 雑 則

(委任)

第27条 本規約施行に関する細則は、会長が別に定める。

第28条 本会は、公益財団法人埼玉県体育協会に加盟する。

附 則

1 本規約は、平成6年5月19日より施行する。

2 本規約施行の際、現に加盟している各種団体は、本規約第7条の規定による加盟団体とみなす。

附 則

本規約は、平成16年6月3日から施行する。

附 則

本規約は、平成18年5月17日から施行する。

行田市体育協会細則

第1条 この細則は、行田市体育協会規約第27条の規定に基づき必要な事項を定めるものとする。

第2条 表彰規定を別に設ける。

第3条 旅費、派遣費の支給については、市外の場合、実費を支給する。ただし、役員のみとする。
(加盟団体の理事、評議員は除く。)

第4条 本会の加盟団体は、主催した行事の詳細な結果および状況をその会の終了後1週間以内に各加盟団体長から本会長あて報告する。

第5条 加盟団体の負担金は一律2,000円とする。

附 則

この細則は、昭和57年5月10日から施行する。

附 則

この細則は、平成6年5月19日から施行する。

行田市体育協会専門委員会細則

(目 的)

第1条 この細則は、行田市体育協会（以下「本会」という。）規約第23条に規定する専門委員会の組織及び運営について必要な事項を定める事を目的とする。

(組 織)

第2条 専門委員会は、本会規約第4条に掲げる事業を遂行するため、次の4部門とする。

- (1) 総務委員会
- (2) 競技委員会
- (3) コミュニティ委員会
- (4) 学童委員会

(所掌事務)

第3条 前条に規定する各専門委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 総務委員会
 - ア 本会事業計画及び予算・決算の策定に関すること
 - イ 本会規約の改正に関すること
 - ウ 本会加盟団体の連絡調整に関すること
 - エ その他本委員会目的達成のため必要な事項
- (2) 競技委員会
 - ア 指導者の養成に関すること
 - イ 競技力向上の調査研究に関すること

- ウ 本会主催事業、講習会等の企画立案に関する事
- エ その他本委員会目的達成のため必要な事項
- (3) コミュニティ委員会
 - ア コミュニティスポーツの推進に関する事
 - イ 各種スポーツ教室の開催に関する事
 - ウ 生涯スポーツ・レクリエーションの推進に関する事
 - エ 市民の健康、体力づくりに関する事
 - オ その他本委員会目的達成のため必要な事項
- (4) 学童委員会
 - ア 学童スポーツ指導者の養成に関する事
 - イ 学童スポーツの普及振興に関する事
 - ウ 学童の心身の健全育成に関する事
 - エ その他本委員会目的達成のため必要な事項

(委員)

第4条 各専門委員会の委員は、本会理事（本会会長及び副会長の職にあるものを除く）をもって当て、本会会長が委嘱する。

2 委員は、各専門委員会のいずれかに所属するものとする。

(役員)

第5条 各専門委員会に次の役員を置き、役員は委員の互選により決定する。

- (1) 委員長 1名
- (2) 副委員長 1名
- (3) 書記 1名

2 委員長は委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は委員長を補佐し、委員長事故あるときはその会務を代理する。

4 書記は会議を収録し、その議事内容について掌理する。

(任期)

第6条 各専門委員会の委員の任期は、本会規約第17条を準用する。

(会議)

第7条 各専門委員会は委員長が招集し、その議長となる。

付 則

この細則は、平成7年4月1日から施行する。

行田市体育協会表彰規程

(目的)

第1条 行田市の体育スポーツの振興に貢献し、その功績顕著なものおよびスポーツ界で優秀な成績をおさめたものに対し、その栄誉を顕彰するために必要な事項を定めるものとする。

(種類)

第2条 表彰の種類は次のとおりとする。

- (1) 功労賞
- (2) 優秀選手賞

(選考基準)

第3条 前条第1号に規定する功労賞は次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 体育、スポーツの振興に著しく功績のあったもの
- (2) 多年体育、スポーツの指導に精励し、著しく功績があったり、他の模範であるもの
- (3) 加盟団体の発展に5年以上役員として功績したもの

2 優秀選手賞は、一般および学徒の運動選手（またはチーム）で特に優秀な技量を発揮して他に認められるもので、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 全国大会出場、関東大会出場、県大会優勝したもの。ただし、全国大会においては予選があるものを対象とする。
- (2) 国際大会、国際試合に参加したもの
- (3) 日本記録を更新したもの（日本タイ記録も含む。）

(推薦方法)

第4条 功労賞の該当者および優秀選手賞の該当者については、加盟団体の長が次の事項を記載して市体育協会会長に推薦する。

- (1) 氏名
- (2) 生年月日
- (3) 住所
- (4) 職業
- (5) 所属団体
- (6) 業績
- (7) 推薦理由

(受賞者の選考)

第5条 前条により推薦されたものについては、選考委員会で決定し、理事会に報告する。

(表彰の時期および方法)

第6条 表彰は原則として市民体育祭において行うものとする。

第7条 表彰は、賞状を授与して行う。ただし、金品を加授することができる。

(規程の変更)

第8条 この規程は、市体育協会理事会の同意を得、総会の承認を得なければ変更することができない。

附 則

この規程は、昭和57年5月10日から施行する。

附 則

この規程は、昭和60年5月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成4年5月19日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年5月20日から施行する。

行田市体育協会表彰選考委員会規程

(目 的)

第1条 行田市体育協会功労賞および優秀選手賞表彰候補者の選考を行うため行田市体育協会表彰選考委員会を置く。

(組織および運営)

第2条 組織および運営は次のとおりとする。

- (1) 選考委員会は、委員長、副委員長、および委員をもって組織する。
- (2) 委員長は市体育協会会長、副委員長は市体育協会副会長、委員は理事の中から若干名を会長が委嘱する。
- (3) 委員長は会務を総理する。
- (4) 委員長事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。
- (5) 選考委員会は委員長が招集する。
- (6) この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は委員長が別に定める。

附 則

この規程は、昭和57年5月10日から施行する。

編 集 後 記

行田市体育協会は、昭和24年5月の創立以来、平成31年(令和元年)に創立70周年を迎えることができました。70年という年月を積み重ねられたことは、これまで携わってこられた歴代の役員をはじめ、多くの方々のご協力とご尽力の賜物です。

平成30年度に実行委員会を組織し、「総務部会」「記念誌部会」の2部会に分かれ、創立70周年に向けた準備を進めてまいりました。

記念誌部会では、創立60周年記念以後の10年間の足跡を中心に、各加盟団体の活動や当協会の主催事業等を皆様に広く知っていただけるよう編集し、記念誌の作成を進めてまいりました。

発刊にあたり、原稿執筆・写真のご提供等をしていただきました各地区体育協会及び加盟団体の皆様並びに関係者各位に心より感謝申し上げます、編集後記とさせていただきます。

令和元年5月

行田市体育協会創立70周年記念事業実行委員会記念誌部会一同

行田市体育協会創立70周年記念事業実行委員会名簿

実行委員長	町田 眞一 (市体協理事長)		
副実行委員長	河野 初江 (市体協副理事長)	川上 新一 (市体協副理事長)	
	水内 昌幸 (市体協副理事長)	竹内 政行 (市体協副理事長)	
	関口 尚子 (市体協副理事長)		
総務部会長	川上 新一 (市体協副理事長)		
総務副部会長	森田 敏一 (市体協総務委員)		
総務部会委員	町田 眞一 (市体協理事長)	河野 初江 (市体協副理事長)	水内 昌幸 (市体協副理事長)
	板谷 幸男 (野球連盟)	清水 陽美 (バレーボール連盟)	村松 晃一 (卓球連盟)
	大西 武士 (ソフトテニス連盟)	吉野 智 (バドミントン連盟)	小林 良一 (アーチェリー協会)
	田澤 健一 (スキー連盟)	高橋 昭三 (山の会)	篠原 忠 (陸上競技協会)
	新井眞佐子 (民謡レクリエーション協会)	中島 憲一 (弓道連盟)	佐藤 勝 (サッカー協会)
	山崎 博司 (テニス協会)	大沼 隆雄 (ソフトボール協会)	川鍋 泰子 (婦人バレーボール協会)
	進藤 大幹 (バスケットボール協会)	小河原一郎 (グラウンド・ゴルフ協会)	松本 隆二 (居合道連盟)
	山口 博之 (少林寺拳法連盟)	巻口 久子 (ミニテニス連盟)	矢島 明男 (ソーシャルダンス連盟)
	成田 幸夫 (ソフトバレーボール連盟)	福田 武久 (ターゲット・パードゴルフ協会)	内藤 賢一 (スポーツウエルネス吹矢協会)
	園部 秀夫 (フロアカーリング連盟)	玉木 民雄 (スポーツ推進委員協議会)	木村 靖文 (柔道連盟)
	伊藤 成行 (剣道連盟)	金田 和憲 (水泳連盟)	斉藤 彰久 (小学校体育連盟)
	松岡 亮佑 (中学校体育連盟)	中島 尚 (体操連盟)	加藤 晃 (リトルシニア野球協会)
	長島 秀宜 (空手道連盟)		
記念誌部会長	竹内 政行 (市体協副理事長)		
記念誌副部会長	関口 尚子 (市体協副理事長)		
記念誌部会委員	清水 敏弘 (忍地区体協)	栃木 諍平 (行田地区体協)	近藤 大二 (佐間地区体協)
	佐原 太 (持田地区体協)	河野 充晴 (星河地区体協)	横田 徳司 (長野地区体協)
	大木 浩二 (荒木地区体協)	森 一豊 (須加地区体協)	大山 芳夫 (北河原地区体協)
	谷部 高史 (埼玉地区体協)	寺田 定弘 (星宮地区体協)	佐藤 範夫 (太井地区体協)
	栗原美智子 (下忍地区体協)	平社 正俊 (太田地区体協)	江森 正行 (南河原地区体協)
	堀田 勇次 (スポーツ推進委員協議会)		

創立70周年記念誌
行田市体育協会のあゆみ
(平成21年度～平成30年度まで)

令和元年6月3日 発行

発行 行田市体育協会
創立70周年記念誌作成部会

事務局 〒361-0052 行田市本丸2番20号
行田市教育委員会生涯学習部
スポーツ振興課内

TEL 048(556)8336